

# AXIS 250S MPEG-2 ビデオサーバ ユーザーズマニュアル

2003 年 7 月発行 第 1 版



COMMUNICATIONS

<http://www.axiscom.co.jp/>

アクシスコミュニケーションズ株式会社

R1.0

## 安全のために

本製品を安全にご利用頂くために、以下の事項を必ず守ってください。これらの事項が守られていない場合、感電、けが、火災、故障などの原因になります。

表示の意味は以下のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

---

---

**警告!** データの消失やお使いの機器への損害を避けるために注意して読む必要があります。

---

---

**重要:** 操作上の損害を避けるために注意して読む必要があります。

---

---

**警告** この表示の注意事項を守らないと、火災、感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

---

---

**注意** この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、データや通信の消失、物的損害の発生する可能性があります。

---

---

## 異常時の処理について

---

---

**警告** 万一、内部に水などが入った場合は、電源アダプタ本体をコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。

---

---

万一、内部に異物が入った場合は、電源アダプタ本体をコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。

---

---

万一、煙が出ている、異臭がするなどの異常状態のまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。すぐに電源アダプタ本体をコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

---

---

万一、本装置を落としたり、ケースを破損した場合は、電源アダプタ本体をコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。

---

---

電源コードが痛んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

---

---

## 取り扱いについて



### 警告

本装置に水が入ったりしないよう、またぬらさないようご注意ください。火災、感電、故障の原因となります。

本装置の上や近くに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり中に入った場合、火災、感電、故障の原因となります。

弊社の指示がない限り、本装置を分解、改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。

弊社の指示がない限り、本装置のケースを外さないでください。電源部や内部に触れると火傷、感電、故障の原因となります。

ぬれた手で本装置を操作しないでください。火災、感電、故障の原因となります。



### 注意

移動させる場合は、電源アダプタをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき火災、感電の原因となることがあります。

## 電源について



### 警告

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。

電源アダプタはコンセントに確実に差し込んでください。電源アダプタ(プラグ)の刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

ぬれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

タコ足配線はしないでください。火災、過熱の原因となります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理にまげたり、ねじったりしないでください。重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

近くに雷が発生したときは、電源アダプタや接続ケーブルなどを抜いてご使用をお控えください。雷によっては火災、感電、故障の原因となります。



### 注意

電源アダプタを抜くときは、必ず電源アダプタ本体を持ってぬいでください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて火災、感電の原因となることがあります。

## 設置場所について



### 注意

直射日光の当たるところや温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所には置かないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

振動、衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

## お手入れについて

お手入れの際は安全のために電源アダプタをコンセントから抜いて行ってください。



### 注意

アルコール、ベンジン、シンナーなど、揮発性のもは使わないでください。変色、変形、変質や故障の原因となります。

静電気集塵型化学ぞうきんは絶対に使わないでください。故障の原因となります。

年に一度は電源コードを抜き、プラグおよびコンセントに付着しているゴミ、ホコリ等を取り除いてください。

## このマニュアルについて

このマニュアルは、製品ソフトウェア（ファームウェア）バージョン 3.03 以降を搭載した AXIS 250S MPEG-2 ビデオサーバ（以下、AXIS 250S）をご利用の管理者またはユーザを対象としています。このマニュアルには AXIS 250S の設定、管理、ネットワーク上での使用方法およびビデオサーバ本体の機能についての情報が含まれます。

AXIS 250S を確実にインストールしてご利用頂くのに、特別なネットワークの経験は必要ありません。必要に応じて、内容を更新したマニュアルをアクシスコミュニケーションズ株式会社（以下、Axis）のホームページで公開することがあります。

### 法律上の注意事項

カメラによる監視は法律によって禁止されている場合があります、その内容は国によって異なります。本製品を監視用途でご利用になる前に、ご利用頂く地域の法律を確認してください。

AXIS 250S は本製品 1 つに対してクライアントソフトウェア用ライセンスが 3 つ含まれています。クライアントソフトウェアを 3 台を越えるコンピュータにインストールすることは禁止されています。追加ライセンスの購入については、Axis 製品の販売店にご連絡ください。

### 知的所有権

Axis Communications AB は、このマニュアルに記載されている製品で具体化された技術に関連する知的所有権を保有しています。これらの知的所有権は、米国またはその他の国において、1 つまたは複数の追加特許、または特許申請中のアプリケーションを含んでいることがあります。

### 電波に関する適合性（日本）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書の従って正しい取り扱いをして下さい。

### 電波に関する適合性（その他の国々）

This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures: Re-orient or relocate the receiving antenna. Increase the separation between the equipment and receiver. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help. Shielded (STP) network cables must be used with this unit to ensure compliance with EMC standards.

#### 米国 -

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

#### 欧州 -

The AXIS 250S fulfills the requirements for radiated emission according to limit B of EN55022:1998. When using the Line input, the AXIS 250S also meets the requirements for immunity according to EN55024:1998 residential, commercial, and light industry. The Mic input may be subject to interference from nearby radio transmissions. For best performance, use the Line input.

## 責任

Axis は、このマニュアルの技術的、印刷上の誤りについて、一切の責任を負いません。また Axis は、予告なく製品やマニュアルの記載内容に対して変更、修正を行うことがあり、将来にわたるいかなる約束を表明するものではありません。Axis は、Axis 製品およびソフトウェアの使用の結果に生じた、偶発的な損害および間接的な損害、またこれらに付随する事業上の利益の損失、データの喪失、その他使用に起因して生じるいかなる損害に対しても責任を負いません。Axis は、このマニュアルに含まれる記述、製品の商業価値および製品の特定用途に対する適合性について、明示的また黙示的な保証を一切いたしません。

## 商標

Acrobat、Adobe、IBM、Linux、Macintosh、Microsoft、OS/2、UNIX、Windows、WWW は各社の登録商標です。Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems Inc. の商標または登録商標です。

## サポートサービス

インターネットがご利用になれる場合は、技術サポート情報、更新された製品ソフトウェア（ファームウェア）、ユーティリティソフトウェア、会社情報など、下記のアドレスからご覧頂けます。

WWW: <http://www.axiscom.co.jp/>

## その他

このマニュアルの制作には細心の注意を払っておりますが、不正確な記述や脱落、乱丁または落丁を見つけれられた場合は、[info@axiscom.co.jp](mailto:info@axiscom.co.jp) までご連絡ください。

AXIS 250S MPEG-2 ビデオサーバユーザーズマニュアル

第 1 版

Copyright © アクシスコミュニケーションズ株式会社、2003

2003 年 7 月発行

Part No: 20759

# 目次

製品の概要 .....	9
特徴と利点 .....	9
アプリケーション .....	11
機能と名称 .....	12
フロントパネル .....	12
リアパネル .....	12
ハードウェアの開梱と検査 .....	13
AXIS 250S をインストールする .....	14
コンピュータのシステム要件 .....	15
AXIS MPEG-2 Viewer をインストールする .....	16
Web ブラウザから AXIS 250S にアクセスする .....	18
オーディオ機器とビデオソース .....	19
AXIS 250S を設定する .....	20
System Options にアクセスする .....	20
System Options の概要 .....	21
ユーザの設定 .....	22
ファイアウォールの設定 .....	24
日付と時刻の設定 .....	25
ネットワークの設定 .....	26
メールサーバの設定 .....	29
ポートの設定 .....	30
再起動とリセット .....	32
サポート .....	32
工場出荷時のデフォルト設定に戻す .....	33
AXIS 250S を操作する .....	34
AXIS 250S にログオンする .....	34
Web ブラウザからアクセスする .....	35
Live View を開く .....	35
イベントについて .....	37
FTP サーバへアップロードする .....	42
イベントの通知 .....	44
オーディオとビデオの設定 .....	47
ポートのステータスとパン / チルト / ズームデバイスの設定 .....	49
Live View のレイアウト .....	51

付録 A	その他の IP アドレスの設定方法	53
	UNIX 環境で IP アドレスを設定する	54
付録 B	トラブルシューティング	55
	IP アドレスに ping する	55
	症状、考えられる原因および対処方法	56
付録 C	ファームウェアの更新	59
	新しいファームウェアを入手する	59
	ファームウェアを更新する	59
付録 D	各種コネクタ	60
	RS-232 コネクタ	60
	I/O コネクタ	60
	パン / チルト / ズームデバイスを接続する	62
	制御と監視	64
付録 E	帯域幅	65
	ビデオのビットレート	65
	画質とビットレート	65
	その他の検討事項	65
付録 F	保証とサポートについて	66
	保証	66
	技術サポート	66
付録 G	技術仕様	67
索引		71



## 製品の概要

AXIS 250S MPEG-2 ビデオサーバ (以下、AXIS 250S) は、TCP/IP を利用したローカルエリアネットワーク (LAN) 上で DVD 品質の MPEG-2 によるビデオ映像をリアルタイムで圧縮、送信します。ビデオ映像の配信には、Motion-JPEG で必要とされる帯域幅の約 1/3 を使用します。

AXIS 250S は、ネットワーク上でアナログビデオの映像を配信するために必要なシステムを備えています。内蔵 Web サーバは、ビデオ映像を閲覧するためのページや、Web ベースの管理・設定ページを提供します。これらのページには、ネットワークを経由して Web ブラウザからアクセスすることができます。また AXIS 250S は、TCP/IP、SMTP、HTTP および他のインターネットに関連するプロトコルに対応しています。



AXIS 250S MPEG-2 ビデオサーバ

## 特徴と利点

### 完全かつ独立

AXIS 250S は他のサーバから独立しています。映像や音声のソースとなる、カメラやオーディオ機器以外のハードウェアは必要ありません。ライブ映像の閲覧や AXIS 250S の設定に必要なソフトウェアは、Microsoft® Internet Explorer、Microsoft Media™ Player、そして DirectX® です。これらのソフトウェアは、Windows 2000 および Windows XP に含まれています。対応するバージョン情報については、15 ページ「コンピュータのシステム要件」を参照してください。Microsoft Media Player は、AXIS MPEG-2 Viewer とともにビデオ映像を閲覧するために使用されます。AXIS 250S には、エンコーダ (1 つ) と閲覧用のデコーダ (3 つ) のライセンスが含まれています。また AXIS 250S は、TCP/IP、SMTP、HTTP および他のインターネットに関連するプロトコルに対応しています。

### 優れたイメージング

ハードウェアによる MPEG-2 形式のデータ圧縮および転送は、Motion-JPEG で必要とされる帯域幅の約 1/3 を使用します。ビデオ映像は LAN 上で最大 3 台のクライアントコンピュータから閲覧することが可能で、30 フレーム / 秒 (NTSC) のフレームレートを実現します。使用できる画像の解像度は 720 × 480 または 352 × 240 (NTSC) です。また、ビットレートの設定も可能です。クライアントコンピュータ上のハードウェアアクセラレータを搭載した高性能ビデオカードにも対応しています。

基板上の AXIS ETRAX 100LX プロセッサは、10/100Mbps ネットワーク上で最大 30 フレーム / 秒 (NTSC) のパフォーマンスを提供します。

### 設定可能なイベント

FTP サーバに MPEG-2 ビデオ映像を保存したり、外付けデバイスを利用してイベントを実行することができます。プリトリガビデオバッファを有効に設定すると、イベントが発生する直前のビデオ映像を、最大 1 分間まで AXIS 250S にバッファすることができます。また、イベントの発生を電子メールで通知することも可能です。

### 外付けデバイスとの接続

AXIS 250S は RS-232 ポートおよび I/O コネクタを備えており、パン / チルト / ズームデバイス、ドアベル、スイッチ、アラームリレーなどの外付けデバイスを接続する物理的なインターフェイスを提供します。特定の時間に動作するアプリケーションや、アラームベースで実行するイベントを作成することができます。また、警報機などのデバイスをリレー出力を利用して動作させたり、高品質のオーディオ機器をフルに活用することができます。アラーム入力 (4 つ) には、イベントや録画を動作させるセンサーを接続します。またデジタル出力 (1 つ) を利用すれば、AXIS 250S から外付けデバイスを駆動することができます。

### オーディオ入力とビデオ入力

AXIS 250S は CCTV カメラを接続する BNC コンポジットビデオ入力、カメラやビデオ機器を接続する S ビデオ入力を 1 つずつ備えています。また、マイクを接続するマイク入力と音声ソースと接続するライン入力をそれぞれを 1 つずつ備えています。マイクとライン入力はそれぞれ独立して音声の増幅を行います。

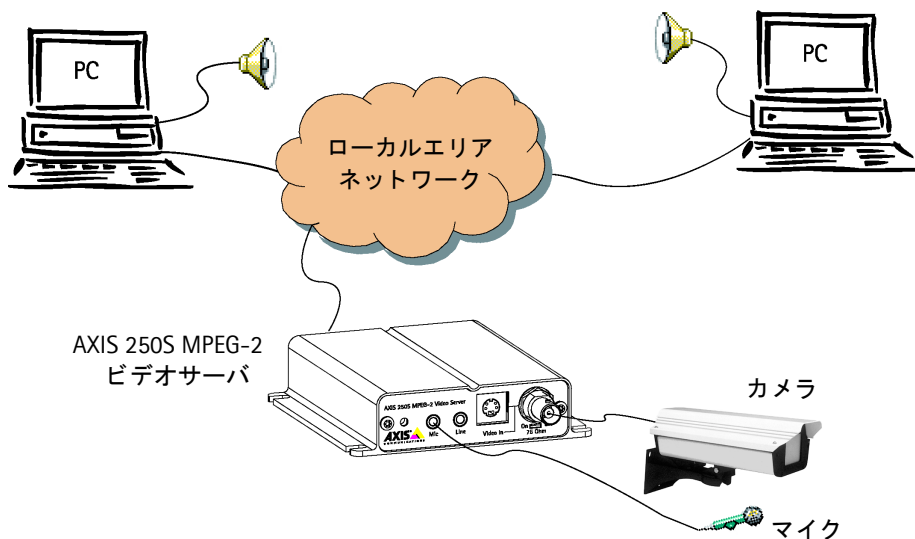
### セキュリティ

マルチユーザ、およびマルチレベルによるパスワード保護に対応しています。管理者はユーザアカウントの作成や編集、また匿名ユーザによる画像の閲覧を許可することができます。また内蔵のファイアウォール機能は、不正なアクセスを防ぐための IP フィルタリングを実行します。

## アプリケーション

AXIS 250S は監視やモニタリングアプリケーションなど、さまざまな用途に使用することができます。ローカルエリアネットワーク（LAN）上で高品質の映像と音声を、固定のフレームレートで配信するアプリケーションに最適です。また AXIS 250S は、連続した画像を FTP サーバにアップロードすることができ、インターネットを経由した間接的な画像へのアクセスを実現します。

LAN 上のコンピュータの Web ブラウザから AXIS 250S に直接アクセスした場合、ビデオ映像をライブで閲覧したり、AXIS 250S をいつでも管理・設定することができます。優れた機能を持つ AXIS 250S は、侵入者の探知、生産工程のコントロール、公共のモニタリング、目視による保安などに理想的なツールです。



- LAN 上で最大 3 つのクライアントが同時にビデオ映像にアクセス可能
- FTP サーバに画像を連続してアップロード
- イベントの通知
- プリトリガとポストトリガを利用した画像のキャプチャ

## 機能と名称

AXIS 250S のインディケータおよびコネクタなどについて説明します。内容をよくお読みになり、AXIS 250S のインストール時にはこの説明を参考にしてください。

### フロントパネル

① リセットボタン - 工場出荷時のデフォルト設定にリセットする時に使用します (詳しくは 33 ページ「工場出荷時のデフォルト設定に戻す」を参照)。

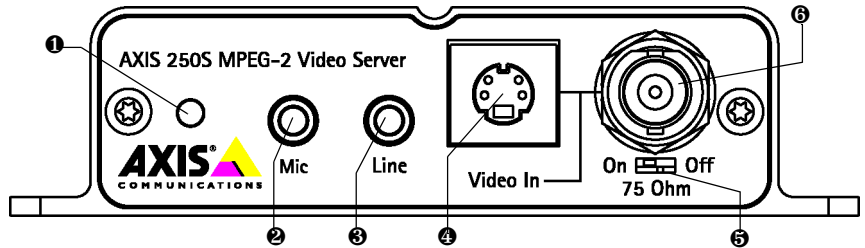
② Mic コネクタ - マイクを接続します。

③ Line コネクタ - 他の音声入力デバイスを接続します。

④ Y/C ビデオ入力 (S ビデオ) - S ビデオケーブル接続用インターフェイスです。

⑤ スイッチ - 75 オーム BNC 用ビデオ入力の終端抵抗の設定スイッチ。通常は On に設定します。

⑥ ビデオ入力 (BNC) - 同軸 / BNC コネクタ接続用のインターフェイス。接続には RG59、75 オームの同軸ケーブルを使用。ケーブルの最大長は 250 メートル以内を推奨します。



### リアパネル

① I/O-A コネクタ - トランジスタ出力 (1 つ)、デジタル入力 (2 つ)、GND への物理的なインターフェイス。CCTV 機器に一般的に付随する外付けデバイスとの接続に使用します (詳しくは 60 ページ「I/O コネクタ」を参照)。

② 外部電源コネクタ - 専用外部電源 (PS-K) を接続するためのソケット。

③ RS-232 シリアルコネクタ - パン / チルト / ズームデバイスとの接続に使用します。

④ RJ-45 ネットワークコネクタ - ローカルネットワークセグメントの速度を自動的に検出し、データ通信の速度を切り替えます (10 または 100Mbps)。

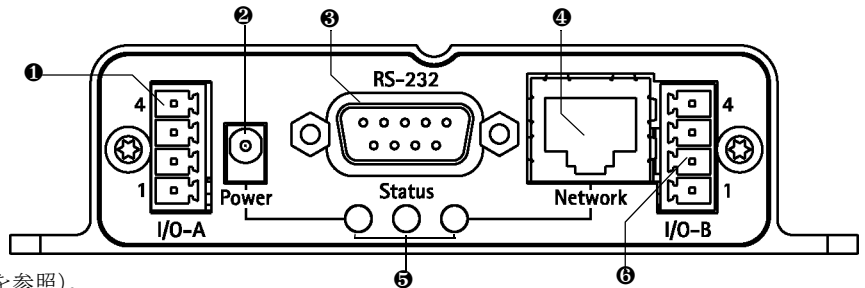
⑤ インディケータ (LED)

**Power インディケータ (左)** - 正常動作時には緑色で点灯。外部電源に問題がある場合は、緑色で点滅または消灯。またファームウェアのアップグレード時には、オレンジ色と緑色で交互に点滅します。

**Status インディケータ (中)** - 正常動作時には緑色で点灯。重大なエラーが発生した時は赤色で点灯します。

**Network インディケータ (右)** - 10Mbps ネットワークに接続している時はオレンジ色、100Mbps ネットワークに接続している時は緑色で点滅。ネットワークに接続されていない場合は赤色で点灯。インディケータが消灯している時はネットワークアクティビティがないことを示します。

⑥ I/O-B コネクタ - RS-485 パン / チルトデバイス、およびデジタル入力 (2 つ) 用の物理的なインターフェイスです (ピン配列については 60 ページ「I/O コネクタ」を参照)。



## ハードウェアの開梱と検査

製品の梱包を開き、内容物を以下のリストと照らし合わせてください。不足しているものや破損しているものがあつた場合は、お早めにご購入先にご連絡ください。

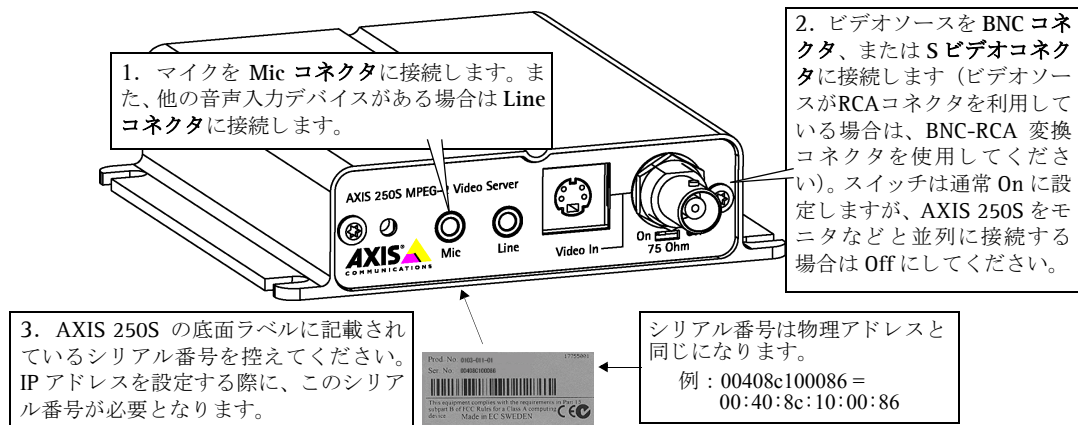
名称	数量	備考
AXIS 250S ビデオサーバー	1	NTSC、PAL に対応。
ターミナルコネクタ	2	
お客様登録カード	1	
ライセンス契約書	1	AXIS MPEG-2 Viewer 用ライセンス契約書。
外部電源アダプタ / PS-K	1	
取付けキット	1	ネジ、プラスチックプラグ、プラスチッククッション (各 4 個)。
ユーザーズマニュアル(またはAXIS Online CD)	1	

**注意：** AXIS 250S に付属している電源が、専用の外部電源アダプタ (PS-K) であることを確認してください。

## AXIS 250S をインストールする

AXIS 250S をネットワークにインストールする方法について説明します。この章はネットワーク管理者向けの内容となっていますので、AXIS 250S の操作方法については、34 ページ「AXIS 250S を操作する」を参照してください。

- クイックインストール - 以下の手順にしたがって、AXIS 250S をネットワークにインストールしてください。
- 他のインストール方法 - 53 ページ「付録 A その他の IP アドレスの設定方法」を参照してください。



4. 同一ネットワーク上のコンピュータから、AXIS 250S に唯一の IP アドレスを割り当てます。

### Windows 環境の場合

コマンドプロンプトを起動して以下のコマンドを実行します。ホスト IP アドレスは、お使いのコンピュータの IP アドレスです。アンダースコア ( \_ ) は半角のスペースを示します。また、Windows 環境では物理アドレスをハイフン ( - ) で区切るようにしてください。

2000 - [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を選択。

XP - [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を選択。

#### 構文 :

```
arp -s ビデオサーバ IP アドレス_ 物理アドレス_ ホスト IP アドレス
ping -t ビデオサーバ IP アドレス
```

#### 例 :

```
arp -s 192.168.70.183_00-40-8c-10-00-86_192.168.70.180
ping -t 192.168.70.183
```

### UNIX 環境の場合

コマンドラインで、以下のコマンドを実行します。

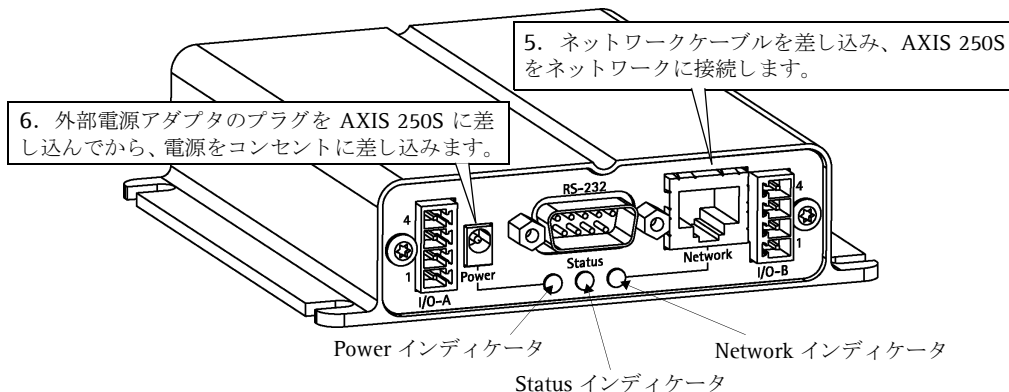
#### 構文 :

```
arp -s ビデオサーバ IP アドレス_ 物理アドレス_ temp
ping ビデオサーバ IP アドレス
```

#### 例 :

```
arp -s 192.168.70.183_00:40:8c:10:00:86_temp
ping 192.168.70.183
```

Windows 環境の場合、ホストから Request timed out... というメッセージが返されます。



7. Windows 環境では、外部電源を接続してから約 10～15 秒後に Reply from 192.168.70.183.. のようなメッセージがコマンドプロンプトに表示されます。UNIX 環境では、192.168.70.183 is alive のようなメッセージがコマンドラインに表示されます。Power インディケータが点灯し、Network インディケータが断続的に点滅していることを確認してください。

8. Windows 環境の場合、Ctrl キーと C キーを同時に押して ping を終了します。これで、ネットワークへの AXIS 250S のインストールが完了しました。

## コンピュータのシステム要件

AXIS 250S のビデオ映像を閲覧するコンピュータは、ハードウェア、ソフトウェアともに以下の条件を満たしている必要があります。

- Pentium III 500MHz 以上の CPU
- 128 M バイト以上のメモリ
- 16 M バイトのビデオメモリを搭載した DirectDraw® 対応の AGP グラフィックカード
- Windows 2000 または Windows XP (XP は Service Pack 1 を適用)
- Internet Explorer 6 (Service Pack 1 を適用) 以上
- Windows Media Player 7.1 以上
- DirectX 8.1 以上

## AXIS MPEG-2 Viewer をインストールする

コンピュータから初めて AXIS 250S にアクセスすると、AXIS MPEG-2 Viewer のインストールウィザードが自動的に起動します。Internet Explorer で AXIS 250S のビデオ映像を閲覧するには、このソフトウェアが必要となります。以下の手順にしたがって、AXIS MPEG-2 Viewer をインストールしてください。

1. Web ブラウザを起動します。[アドレス] フィールドに AXIS 250S に割り当てた IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

例：

```
http://192.168.70.183/
```

2. [セキュリティ警告] ページが表示されたら、[はい] をクリックします。
3. [Welcome] ページが表示されます。[Next] をクリックします。
4. [License] ページが表示されます。製品には日本語のライセンス契約書が同梱されています。内容をよくお読みになり、ライセンス契約書に同意される場合は [I accept the License agreements] のオプションをチェックして [Next] をクリックします。
5. [Start Installation] ページが表示されます。[Next] をクリックするとインストールが開始します。
6. [Installation Complete] ページが表示されます。[Finish] をクリックしてウィザードを終了します。

### 重要！

- 1 台の AXIS 250S には AXIS MPEG-2 Viewer のライセンスが 3 つ含まれています。AXIS MPEG-2 Viewer を 3 台を越えるコンピュータにインストールして同時に使用することはライセンス契約に違反します。追加ライセンスの購入については、Axis 製品の販売店へお問い合わせください。
- AXIS MPEG-2 Viewer をインストールするには、Internet Explorer のセキュリティの設定で署名済みの ActiveX コントロールのダウンロードが許可されている必要があります。Internet Explorer のデフォルトの設定では、ダウンロードは許可されています。
- AXIS MPEG-2 Viewer は、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] からアンインストールすることができます。
- お使いのコンピュータに Windows Media Player 7.1 以上、DirectX 8.1 以上がインストールされていない場合、AXIS MPEG-2 Viewer のインストールの間にその旨のメッセージが表示されます。お使いのコンピュータにこれらのソフトウェアをインストールした後に AXIS MPEG-2 Viewer のインストールを行うようにしてください。

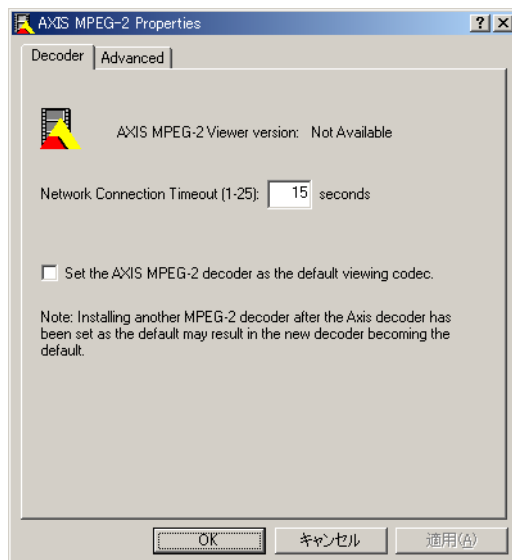
AXIS MPEG-2 Viewer をインストールした後にコンピュータの再起動を求めるダイアログボックスが表示された場合は、メッセージにしたがって再起動してください。

AXIS MPEG-2 Viewer のインストールが完了すると、Windows の [コントロールパネル] に [AXIS MPEG-2 Viewer] アイコンが作成されます。このアイコンをダブルクリックすると [AXIS MPEG-2 Properties] ページが表示され、以下の設定を行うことができます。



**Network Connection Timeout** - この値は、エラーメッセージが表示される前にコンピュータが AXIS 250S にアクセスを試みるまでの待ち時間を秒で指定します。デフォルト値は 15 に設定されています。

**Set the AXIS MPEG-2 decoder as the default viewing codec** - このオプションを選択すると、MPEG-2 ビデオ映像を閲覧する時に AXIS MPEG-2 Viewer が標準で使用されるようになります。他のデコーダを後からインストールした場合、この設定が変更されることがあります。



## Web ブラウザから AXIS 250S にアクセスする



### 重要！

AXIS 250S は、管理者「root」とそのデフォルトパスワード「pass」が定義された状態で出荷されています。権限のないユーザによる設定ページやビデオ映像へのアクセスを防ぐためにも、管理者（root）用のパスワードはできるだけ早く変更してください。

## オーディオ機器とビデオソース

以下の手順にしたがって、オーディオ機器とビデオソースの設定を行ってください。

1. **[Setup]** リンクをクリックして設定ページを開きます。画面左側のリンクから **[Audio & Video]** をクリックします。ビデオ設定用の **[Video]** ページが表示されます。
2. **[Physical connector]** オプションから、映像ソースとなる機器が接続されているコネクタを選択します。
3. **[Source modulation]** オプションから、お使いの機器に合った変調方式を選択します。日本では NTSC 方式が一般的ですが、お使いの機器に付属のマニュアル等で確認してください。**[Save]** をクリックして設定を保存します。
4. **[Audio]** リンクをクリックします。音声設定用の **[Audio]** ページが表示されます。
5. **[Input]** オプションから、音声ソースとなる機器が接続されているコネクタを選択します。
6. **[Enable]** オプションにチェックマークが付いていることを確認します。必要に応じて、**[Quality]** および **[Mic input sensitivity]** オプションを設定します。**[Save]** をクリックして設定を保存します。
7. 画面左上の **[Live View]** リンクをクリックしてビデオ映像と音声を確認します。

オーディオ機器とビデオソースの詳しい設定方法については、47 ページ「オーディオとビデオの設定」を参照してください。

## AXIS 250S を設定する

AXIS 250S の設定を行う **System Options** について説明します。AXIS 250S の一般的な操作方法、たとえばイベントの追加方法などについては、34 ページ「AXIS 250S を操作する」を参照してください。

**System Options** を利用した設定を行う前に、AXIS 250S が正しくネットワークにインストールされている必要があります。まだインストールが完了していない場合は、14 ページ「AXIS 250S をインストールする」を参考にインストールを行ってください。

**System Options** は、AXIS 250S の管理者が利用するようにしてください。

### 重要！

- あらかじめ定義されている管理者 (root) 用のデフォルトパスワード (pass) は、できるだけ早く変更するようにしてください。このデフォルトパスワードを変更しない限り、セキュリティ機能は有効になりません。ユーザの設定について詳しくは、22 ページ「ユーザの設定」を参照してください。
- 初めて AXIS 250S にアクセスして設定ページを利用する場合、管理者と見なされるためユーザ名およびパスワードの入力は必要ありません。
- AXIS 250S の Web ベースの設定ページを利用するには、Web ブラウザの設定で JavaScript が有効になっている必要があります。

## System Options にアクセスする

**System Options** を利用して、いつでも AXIS 250S の設定を行うことができます。以下の手順にしたがって、Web ブラウザから **System Options** にアクセスしてください。

1. Web ブラウザを起動します。[アドレス] フィールドに、AXIS 250S に割り当てた IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

例：

```
http://192.168.70.183/
```

2. 初めて AXIS 250S にアクセスする場合、ユーザ名とパスワードを入力する必要はありません。[Live View] ページが表示されたら、左上の [Setup] リンクをクリックします。画面左側に表示されるリンクから、[System Options] をクリックします。

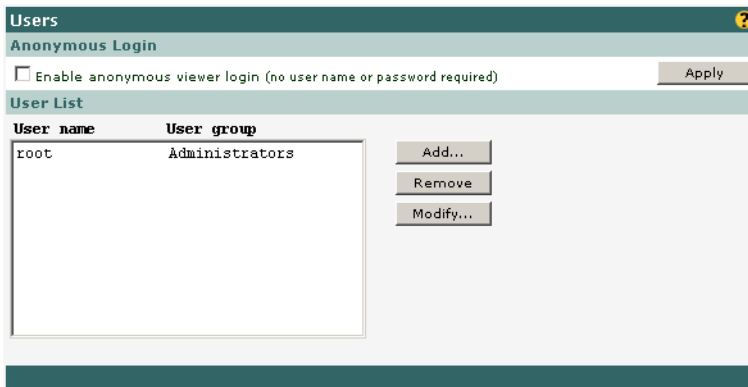
## System Options の概要

以下の表に、System Options で行える設定の概要を示します。各設定の詳細については、参照先のページをご覧ください。

項目	設定の概要	参照先
Security - Users	ユーザ名とパスワードの追加、変更、削除、および管理者 (root) 用のパスワードの変更を行います。	22 ページ
Security - Firewall	AXIS 250S への不正なアクセスを防ぐための内蔵ファイアウォール機能。アクセスを許可する IP アドレス、およびプロトコルの設定を行います。	24 ページ
Date & Time	日付と時刻の設定。手動または自動による設定が可能です。	25 ページ
Network - TCP/IP	IP アドレスの設定方法 (BOOTP/DHCP/ 手動) の選択、およびネットワークの設定。ネットワークスピードの選択も可能です。	26 ページ
Network - SMTP (email)	メールサーバの設定。この設定は、特定のイベントが発生したことを電子メールで通知する場合に必要となります。	29 ページ
Ports & Devices - I/O Ports	入力および出力の有効・無効の切り替え、および設定を行います。	30 ページ
Ports & Devices - RS-232	パン / チルト / ズームデバイスを接続している場合は、このページで適切なドライバを選択します。	31 ページ
Ports & Devices - RS-485	日本ではこのオプションはサポートしていません。	
Maintenance	AXIS 250S を再起動したり、工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。	32 ページ
Support - Support Overview	サポートに関する情報を表示します。	32 ページ
Support - Logs & Reports	ログファイル、サーバレポート、パラメータリストを表示します。	32 ページ
Support - About	AXIS 250S の開発に関する情報を表示します。	33 ページ

## ユーザの設定

AXIS 250S への不正なアクセスを防ぐため、AXIS 250S はマルチレベルのパスワード保護機能に対応しています。登録可能なユーザは、あらかじめ定義された管理者 (root) を入れて最大 20 名です。管理者 (root) は [Users] ページにアクセスしてユーザの追加、変更および削除を自由に行うことができます。画面左側のリンクから [Security] をクリックすると、[Users] ページが表示されます。



- **Anonymous Login** - このチェックボックスをオンにして [Apply] ボタンをクリックすると、匿名ユーザによる AXIS 250S の [Live View] ページへのアクセスが許可されます (設定ページにアクセスするには、定義済みのユーザ名とパスワードで AXIS 250S にログオンする必要があります)。
- **User List** - 現在登録されているユーザの一覧が表示されます。管理者 (root) はあらかじめ定義されたユーザで、削除することはできません。root 用のデフォルトパスワード (pass) は、できるだけ早く変更してください。

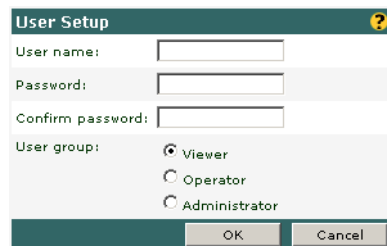
### 重要！

- 管理者 (root) 用のデフォルトパスワード (pass) を変更するとセキュリティの機能が有効となり、登録済みのユーザだけが [Live View] ページや設定ページにアクセスできるようになります。ただし、[Anonymous Login] オプションが有効に設定されている場合は、登録されていないユーザでも [Live View] ページにはアクセスすることができます。
- [Anonymous Login] オプションの設定は、root 用のパスワードが変更されない限り機能しません。
- すべての Axis 製品にはデフォルトで同じパスワードが設定されています。できるだけ早く root 用のパスワードを変更するようにしてください。
- root 用のパスワードを一旦変更してから再度デフォルトパスワード (pass) に戻した場合、セキュリティ機能は無効になります。

## ユーザを追加する

[Users] ページの [Add...] ボタンをクリックすると [User Setup] ページが表示されます。

- **User name** - ユーザ名を半角英数字 (ただし先頭は英字) 11 文字以内で指定します。
- **Password** - パスワードを半角文字 8 文字以内で指定します。
- **Confirm password** - パスワードを再入力します。



The screenshot shows a 'User Setup' dialog box with a question mark icon in the top right corner. It has three input fields: 'User name:', 'Password:', and 'Confirm password:'. Below these is a 'User group:' section with three radio button options: 'Viewer' (which is selected), 'Operator', and 'Administrator'. At the bottom of the dialog are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

## ユーザグループ

[User group] のオプションから、新規ユーザが属するグループを選択します。アクセス権のレベルは、以下の通りです。

- **Viewer** - 画像の閲覧だけが可能な、最も低いアクセス権です。パン / チルト / ズームが可能なデバイスを接続している場合、[Live View] ページにコントロールバーを表示することができます。このアクセス権を持つユーザも、これらのコントロールバーを操作することができます。
- **Operator** - System Options に属する設定を除く、イベント、FTP サーバへのアップロード、イベントの通知、オーディオとビデオ、[Live View] ページのレイアウトに関する設定が可能なアクセス権です。
- **Administrator** - AXIS 250S のすべての設定が可能なアクセス権です。

すべての設定を行ったら、[OK] ボタンをクリックしてユーザを追加します。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずに [User Setup] ページを閉じます。

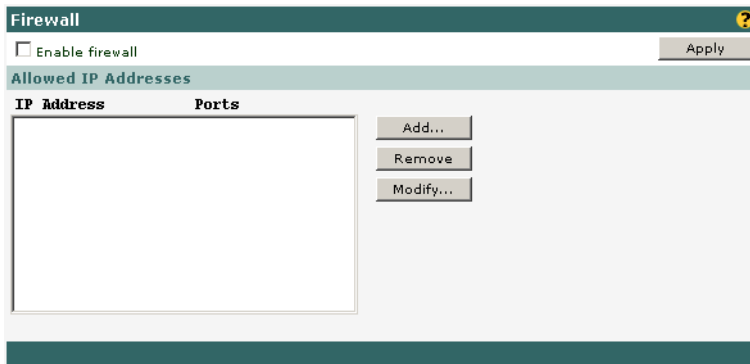
## ユーザ設定の変更と削除

設定を変更する場合は [User List] の一覧からユーザ名をクリックして選択し、[Modify...] ボタンをクリックします。[User Setup] ページで変更を行い、[OK] をクリックします。

ユーザを削除する場合は [User List] の一覧からユーザ名をクリックして選択し、[Remove...] ボタンをクリックします。削除を確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

## ファイアウォールの設定

内蔵のファイアウォール機能は、AXIS 250S を不正なアクセスから保護します。AXIS 250S へのアクセスを制限するには、アクセスを許可するコンピュータの IP アドレスを指定します。この機能を有効にすると、[Allowed IP Addresses] の一覧に表示されていない IP アドレスを持つコンピュータは、AXIS 250S にアクセスできなくなります。画面左側のリンクから [Security - Firewall] をクリックすると [Firewall] ページが表示されます。

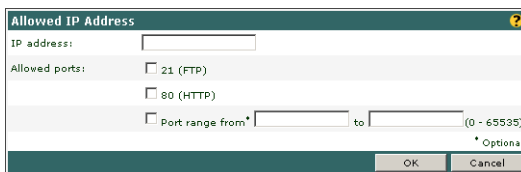


- **Enable firewall** - ファイアウォール機能を有効にするには、[Enable firewall] のチェックをオンにして [Apply] ボタンをクリックしてください。
- **Allowed IP Addresses** - この一覧には、AXIS 250S へのアクセスを許可された IP アドレスが表示されます。

## 許可する IP アドレスを追加する

[Firewall] ページの [Add...] ボタンをクリックすると [Allowed IP Address] ページが表示されます。

- **IP address** - このフィールドに、IP アドレスを個別、または範囲で指定します。範囲による指定は、多くのアクセスを許可する場合に便利です。たとえば、「192.168.0.\*」のように指定すると、192.168.0.0 ~ 192.168.0.255 までの IP アドレスが追加されます。このフィールドには、最大 256 個までの IP アドレスを登録することができます。
- **Allowed ports** - AXIS 250S へのアクセスに利用できるプロトコル (FTP および HTTP) を選択します。利用するポート番号を指定する必要がある場合は、[Port range from] フィールドにポート番号を指定してください。HTTP を利用する場合は、[Network - TCP/IP] ページで指定されている HTTP ポートと同じ値が設定されている必要があります。[Network - TCP/IP] ページでデフォルト値の 80 以外が設定されている場合は、このフィールドにその値を手動で追加してください。



すべての設定を行ったら、[OK] ボタンをクリックして設定を保存します。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずに [Allowed IP Address] ページを閉じます。

**注意：** プロキシサーバを経由して AXIS 250S にアクセスする場合は、プロキシサーバの IP アドレスを [Allowed IP Addresses] の一覧に追加してください。



## 許可した IP アドレスの変更と削除

設定を変更する場合は [Allowed IP Addresses] の一覧から IP アドレスをクリックして選択し、[Modify...] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。

IP アドレスを削除する場合は [Allowed IP Addresses] の一覧から IP アドレスをクリックして選択し、[Remove...] ボタンをクリックします。削除を確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

## 日付と時刻の設定

画面左側のリンクから [Date & Time] をクリックすると [Date & Time Settings] ページが表示されます。

### 現在の日付と時刻 - Current server time

[Current server time] には、現在 AXIS 250S に設定されている日付と時刻が表示されます。

### 日付と時刻の設定方法 - New server time

- **Time zone** - AXIS 250S を利用している地域を選択します。
- **Automatically adjust for daylight saving time changes** - このチェックをオンにすると、サマータイムの調整を自動的に行います。
- **Time mode** - 日付と時刻の設定方法を以下のオプションから選択します。
  - **Synchronize with computer time** - コンピュータの時間に合わせます。
  - **Synchronize with NTP server** - NTP サーバの時間に、1 分毎に同期します。[NTP server] フィールドに NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を指定し、[Time zone] リストボックスから適切な地域を選択します。ホスト名を利用する場合は、[Network - TCP/IP] ページで [DNS] の設定を行う必要があります。
  - **Set manually** - 日付と時刻を手動で指定します。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、手動で設定した日付と時刻をリセットします。

## ネットワークの設定

画面左側のリンクから [Network] をクリックすると、[TCP/IP Settings] ページが表示されます。

### IP アドレスを自動的に設定する - Automatic IP Configuration

- **BOOTP** - BOOTP を利用して自動的に IP アドレスの割り当てを行うには、このオプションを選択します。BOOTP を利用する場合は、ネットワーク上に BOOTP サーバが必要となります。BOOTP はデフォルトで有効に設定されています。
- **DHCP** - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を利用すると、IP アドレスを集中して管理しながらネットワーク上のコンピュータに自動的に IP アドレスを割り当てることができます。DHCP サーバを利用した IP アドレスの割り当てを行う場合は、このオプションを選択します。
- **Manual IP configuration** - このオプションを選択した場合は、28 ページ「IP アドレスを手動で設定する - Manual IP Configuration」を参照して設定を行ってください。

### 重要！

DHCP オプションは、IP アドレスの変更通知機能を利用している場合、また DHCP サーバが DNS サーバを更新してホスト名で AXIS 250S にアクセスできる場合に有効にしてください。DHCP オプションを有効にした状態で AXIS 250S にアクセスできない場合は、AXIS 250S を工場出荷時のデフォルト設定（33 ページを参照）にリセットして手動で IP アドレスを設定してください（14 ページを参照）。

## IP アドレスの変更通知機能 - Notification of IP Address Change

DHCP などによって AXIS 250S の IP アドレスが予期せずに変更されてしまった場合に、その変更情報を通知することができます。[TCP/IP Settings] ページの [Settings] ボタンをクリックして [Notification of IP Address Change] ページを開き、以下の表を参考に必要な設定を行ってください。

The screenshot shows the 'Notification of IP Address Change' configuration window. It has a title bar with a question mark icon. The window is divided into three main sections: HTTP Notification, SMTP Notification (email), and FTP Notification. Each section has an 'Enable' checkbox. The HTTP section includes fields for URL (pre-filled with 'http://'), Custom parameters, User name, Password, Proxy, Proxy port, Proxy user, and Proxy password. The SMTP section includes 'Send to', 'From', and 'Subject' fields, and a 'Send test mail' button. The FTP section includes 'Network address', 'Upload path', 'User name', 'Password', and 'Use passive mode' checkbox. Below these sections is a 'Notification Message (used by all)' section with a text input field containing 'Your text here'. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

### HTTP Notification

このオプションを有効にした場合、HTTP GET リクエストを指定した URL に送信し、リクエストを受け取ったサーバ側に用意された CGI スクリプトによって情報を処理します。

Enable	このチェックをオンにすると HTTP による通知が有効になります。
URL	情報を処理する CGI スクリプトへの URL を指定します。
Custom parameters	オプションパラメータです。ここには URL エンコード化された文字列を入力します。文字列の最初には「&」をつける必要があります。
User name	CGI スクリプトがパスワードで保護されている場合、ユーザ名を指定します。
Password	CGI スクリプトがパスワードで保護されている場合、パスワードを指定します。
Proxy	URL に記述されているホストに接続する際にプロキシサーバを経由する場合は、プロキシサーバの IP アドレスを入力します。
Proxy port	プロキシサーバが利用するポート番号を入力します。
Proxy users	プロキシサーバへの接続にユーザ名が必要な場合は、ユーザ名を指定します。
Proxy password	プロキシサーバへの接続にパスワードが必要な場合は、パスワードを指定します。

**SMTP Notification (email)**

変更情報を電子メールで送信します。

<b>Enable</b>	このチェックをオンにすると SMTP による通知が有効になります。
<b>Send to</b>	変更情報の送信先の電子メールアドレスを入力します。
<b>From</b>	変更情報を含む電子メールの送信者のメールアドレスを入力します。
<b>Subject</b>	電子メールの件名として表示するテキストを入力します。
<b>Send test mail</b>	このボタンをクリックすると、テストメールを送信します。

**FTP Notification**

変更情報を含むファイルを FTP サーバ上に保存します。

<b>Enable</b>	このチェックをオンにすると FTP による通知が有効になります。
<b>Network address</b>	利用する FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
<b>Upload path</b>	利用する FTP サーバの保存先へのパスを入力します。
<b>User name</b>	FTP サーバにログオンする際のユーザ名を入力します。
<b>Password</b>	FTP サーバにログオンする際のパスワードを入力します。
<b>Use passive mode</b>	通常、AXIS 250S は FTP サーバに対してデータコネクションを確立するよう要求します。このチェックボックスをオンにすると、PASV コマンドが FTP サーバに発行され、Passive モードによる接続が確立されます。これにより、AXIS 250S は対象となる FTP サーバに対し、FTP コントロールコネクションとデータコネクションを両方とも行うことができます。この機能は、AXIS 250S と FTP サーバの間にファイアウォールが設置されている場合などに便利です。
<b>Text type</b>	変更情報ファイルを FTP を利用して転送する場合、ファイルに含める情報を次の 3 種類から選択することができます。 <b>Short</b> - 変更された IP アドレス情報だけを含みます。 <b>Extended</b> - IP アドレス情報以外も含みます。 <b>Extended HTML</b> - 含まれる情報の内容は Extended と同じですが、HTML タグが追加されます。

**Notification Message (used by all)**

<b>Message</b>	変更情報に含めるテキストを入力します。ここで入力したテキストは、有効に設定されているすべての通知方法で利用されます。
----------------	--

**IP アドレスを手動で設定する - Manual IP Configuration**

- **IP address** - AXIS 250S に割り当てる IP アドレスを入力します。IP アドレスはピリオドで区切られた 4 つの値で構成されます。それぞれの値は、0 ~ 255 の間で指定してください (例: 172.21.1.200)。

**注意:** 手動で AXIS 250S に IP アドレスを設定する場合は、事前にネットワーク管理者に相談するようにしてください。ネットワーク上で IP アドレスの競合が発生しないよう、十分ご注意ください。

- **Default router** - デフォルトゲートウェイを指定します。
- **Subnet mask** - AXIS 250S が属しているサブネットマスクを指定します。
- **Host name** - DNS サーバが動作しているネットワーク環境でホスト名を利用して AXIS 250S にアクセスする場合は、AXIS 250S のホスト名を入力します。通常、ホスト名は DNS 名と同じになります。ホスト名は、完全修飾ドメイン名の最初の部分に相当します (ピリオドを除く)。たとえば、完全修飾ドメイン名が myserver.axis.com の場合、ホスト名は myserver になります。

## DNS の設定 - DNS

- **Domain name** - AXIS 250S が属するドメインの名前を入力します。
- **Primary DNS server** - プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。DNS サーバは、ネットワーク上のデバイスのホスト名と IP アドレスを対応させます。名前解決が速やかに行われなかった場合、ネットワーク上の他の DNS サーバにクエリを送信します。
- **Secondary DNS server** - セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。セカンダリ DN サーバは、プライマリ DNS サーバが利用できないときに使用されます。

## HTTP ポート - HTTP

- **HTTP port** - AXIS 250S が使用するポート番号を指定します。デフォルト値は、80 に設定されています。ポート番号は 1024 ~ 65535 の間で指定することができますが、デフォルト値を変更する場合はネットワーク管理者に相談してください。また、24 ページ「ファイアウォールの設定」の項目も参照してください。

## ネットワークスピードの設定 - Network Traffic

AXIS 250S が利用するネットワークスピードを変更することができます。通常は、適切なメディアタイプを自動的に検出するデフォルト値の **Auto-Negotiate** をそのまま利用してください。あるいは、必要に応じてドロップダウンリストから利用するメディアタイプを選択してください。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

## メールサーバの設定

AXIS 250S はイベントやエラーが発生した時に、指定したメールアドレスに電子メールを送信することができます。画面左側のリンクから [Network - SMTP (email)] をクリックすると [SMTP (email)] ページが表示されます。

- **Primary mail server** - プライマリ メールサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を利用する場合は、[Network - TCP/IP] ページの DNS の設定を行ってください。
- **Secondary mail server** - セカンダリ メールサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。セカンダリ メールサーバは、プライマリ メールサーバが利用できない時に使用されます。
- **Send test email to** - メールアドレスを入力して [Send] ボタンをクリックすると、テストメールを送信します。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

## ポートの設定

### I/O ポート

I/O ポートの入力ポート (Input) を 4 つと、出力ポート (Output) の設定を行います。画面左側のリンクから [Ports & Devices] をクリックすると [I/O Ports] ページが表示されます。

Port	Enable	Name	Normal state is...*	Current Signal
Input 1	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="Input 1"/>	<input type="text" value="Closed circuit"/>	Closed circuit
Input 2	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="Input 2"/>	<input type="text" value="Closed circuit"/>	Closed circuit
Input 3	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="Input 3"/>	<input type="text" value="Closed circuit"/>	Closed circuit
Input 4	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="Input 4"/>	<input type="text" value="Closed circuit"/>	Closed circuit
Output	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="Output"/>	<input type="text" value="Open circuit"/>	Open circuit

\*Normal state is the same as the port being inactive (see help for more information).

Save Reset

- **Enable** - このオプションをオンにすると、そのポートが有効に設定されます。
- **Name** - ポートの名前を入力します。
- **Normal state is...** - 標準の状態、つまりポートが動作していないと判断する状態を指定します。たとえば、入力ポートが接続されているドアスイッチの標準の状態を「Closed circuit」に設定した場合、ドアが開かない限りポートの状態は動作していない (Closed circuit) となります。ドアが開くとセンサーが動作し (Open circuit)、標準の状態から遷移します。外部デバイスを利用したイベントのトリガは、このようにして動作します。
- **Current Signal** - たとえば、標準の状態が「Open circuit」に設定されているポートの [Current Signal] の表示が「Closed circuit」となっている場合、そのポートが動作したことを示します。

### 重要！

外部デバイスは、電源が切れるなどのエラーが発生すると正しく動作しない場合があります。

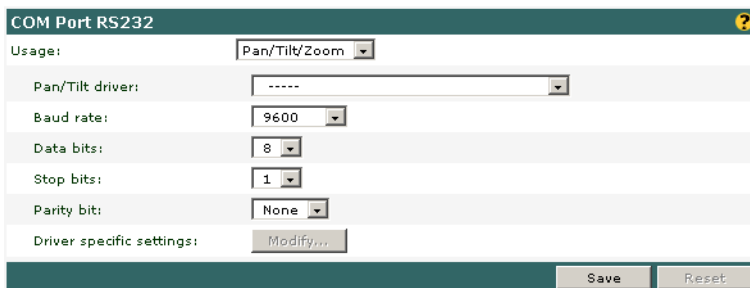
すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

## RS-232 ポート

AXIS 250S のリアパネルに備えられている COM ポートの設定を行います。画面左側のリンクから [Ports & Devices - RS-232] をクリックすると [COM Port RS232] ページが表示されます。



- **Usage** - COM ポートにパン / チルト / ズームデバイスを接続する時は、このドロップダウンリストから **Pan/Tilt/Zoom** を選択します。Pan/Tilt/Zoom を選択すると、次の画面が表示されます。



- **Pan/Tilt driver** - 接続しているパン / チルト / ズームデバイスのドライバをドロップダウンリストから選択します。
- **Baud rate** - ボーレートを選擇します。
- **Data bits** - データビットを選擇します。
- **Stop bits** - ストップビットを選擇します。
- **Parity bit** - パリティビットを選擇します。
- **Driver specific settings** - [Pan/Tilt driver] ドロップダウンリストから選擇したドライバに応じて、ドライバ固有の設定が行えるものがあります。そのような場合は、[Modify...] ボタンをクリックして各ドライバ用の設定ページで設定を行ってください。

対応するパン / チルト / ズームデバイス、およびドライバの設定方法については、62 ページ「パン / チルト / ズームデバイスを接続する」を参照してください。

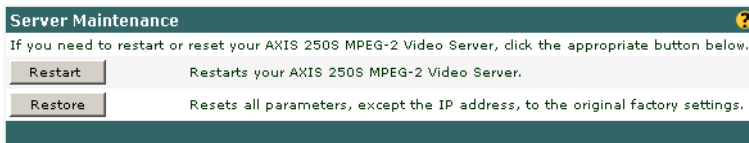
すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

## RS-485 ポート

この機能は日本ではサポートしていません。

## 再起動とリセット

画面左側のリンクから [Maintenance] をクリックすると [Server Maintenance] ページが表示されます。



- **Restart** - このボタンをクリックすると、AXIS 250S を再起動します。
- **Restore** - このボタンをクリックすると、AXIS 250S を工場出荷時のデフォルトの設定にリセットします (IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、サブネットマスク、物理アドレスを除く)。手動で工場出荷時の状態にリセットするには、33 ページを参照してください。

再起動、またはリセットの実行を確認するメッセージが表示されます。そのまま続行する場合は、[OK] をクリックします。

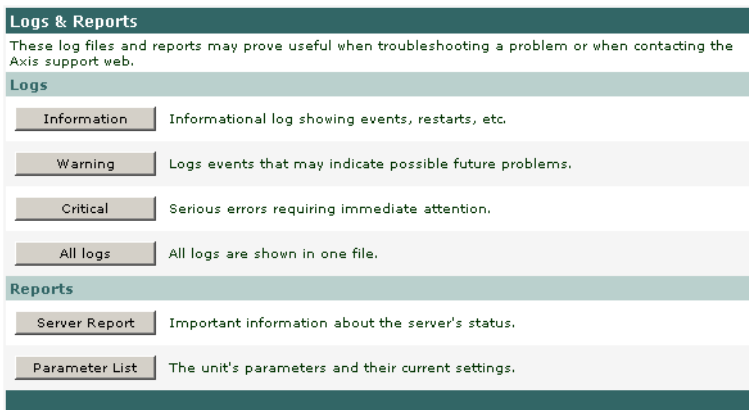
## サポート

### サポートの概要 - Support Overview

サポートに関する概要を表示します。このページに含まれる内容、およびリンク先の情報はすべて英語で提供されます。

### ログファイルとサーバレポート

ログファイルやサーバレポートなどのトラブルシューティングに役立つ情報を得ることができます。またログファイルは、イベントのトリガとして利用することもできます。画面左側のリンクから [Support - Logs & Reports] をクリックすると [Logs & Reports] ページが表示されます。



### ログファイル - Logs

- **Information** - AXIS 250S の動作状況を記録します。イベントの発生や、AXIS 250S の再起動などが含まれます。



- **Warning** - 正常な動作を妨げる可能性のあるエラーを記録します。
- **Critical** - 早急な対処を必要とする重大なエラーを記録します。
- **All logs** - Information、Warning、Criticalの3つのログファイルを1つのファイルにまとめて表示します。

## レポート - Reports

- **Server Report** - AXIS 250S に関する重要な情報を表示します。Axis の技術サポートに問い合わせをする際は、このサーバレポートの内容を知らせてください。
- **Parameter List** - AXIS 250S のパラメータリスト（現在の設定）を表示します。Axis の技術サポートに問い合わせをする際は、このパラメータリストの内容を知らせてください。

## AXIS 250S について - About

AXIS 250S の開発に関する情報を表示します。このページに含まれる内容、およびリンク先の情報はすべて英語で提供されます。

## 工場出荷時のデフォルト設定に戻す

状況によっては、AXIS 250S を工場出荷時のデフォルト設定にリセットする必要があるかもしれません。AXIS 250S は、以下の2種類の方法で設定をリセットすることができます。

- [System Options - Maintenance] をクリックして [Server Maintenance] ページを開き、[Restore] ボタンをクリックします。このボタンを利用した場合、IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、サブネットマスク、物理アドレス以外のパラメータがすべてリセットされます。
- AXIS 250S のフロントパネルに備えられているリセットボタンを操作します。リセットボタンを利用した場合、物理アドレス以外のパラメータがすべてリセットされます。

以下の手順にしたがって、コントロールボタンを利用して工場出荷時のデフォルト設定にリセットしてください。

1. AXIS 250S から外部電源アダプタを外します。
2. リセットボタンを押しながら電源アダプタを取り付け、AXIS 250S の電源を入れます。
3. Status インディケータがオレンジ色で点灯するまでリセットボタンを押し続けます（約 15 秒ほどかかります）。リセットボタンを放してしばらくすると、Status インディケータが緑色で点灯します。
4. AXIS 250S は工場出荷時のデフォルト設定にリセットされました。

## AXIS 250S を操作する

AXIS 250S の監視システムへの導入などを行う、Operator のアクセス権を持つユーザを対象とした操作方法について説明します。この章には、以下の項目が含まれます

- AXIS 250S へのアクセス方法
- イベントの設定
- 画像のアップロードに関する設定
- オーディオとビデオ設定の編集
- ポートとデバイスステータスの確認
- [Live View] ページのレイアウト変更

AXIS 250S の詳しい管理・設定方法については、20 ページ「AXIS 250S を設定する」を参照してください。

## AXIS 250S にログオンする

AXIS 250S はマルチレベルのアクセス権を設定することが可能で、通常、ユーザはまず AXIS 250S にログオンする必要があります。アクセス権のレベルによって操作可能な範囲を制限することができます。低レベルのアクセス権ではいくつかのオプションが利用できないようになっています。まず最初に、管理者が AXIS 250S へのアクセスを許可するユーザの追加と定義を行うようにしてください。ユーザの追加について詳しくは、22 ページ「ユーザの設定」を参照してください。

Operator のアクセス権を持つユーザは、AXIS 250S の [Setup] リンクから設定ページにアクセスして各種設定を行うことができます。ただし、[System Options] リンクに含まれる設定項目にアクセスするには、管理者 (Administrator) として AXIS 250S にログオンする必要があります。

例外として、匿名ユーザによるアクセスを許可するオプションを有効にすると、ユーザ名やパスワードを入力せずに AXIS 250S のビデオ映像を閲覧できるようになります。匿名ユーザの設定について詳しくは、22 ページ「ユーザの設定」を参照してください。

### 重要！

システム管理者は AXIS 250S にビデオカメラなどの機器を接続してネットワークにインストールし、利用するシステムに合わせて機能やページレイアウトの調整を行います。したがって、この章に含まれている参考画面は実際のシステムとは異なる場合があります。

## Web ブラウザからアクセスする

AXIS 250S のビデオ映像や設定ページには、Windows 2000 または Windows XP 上で動作する Microsoft Internet Explorer 6 (Service Pack 1 を適用) 以上からアクセスすることができます。

以下の手順にしたがって、AXIS 250S にアクセスしてください。

1. Internet Explorer を起動します。
2. [アドレス]フィールドに AXIS 250S に割り当てた IP アドレスを入力し、[Enter]キーを押します。

例：

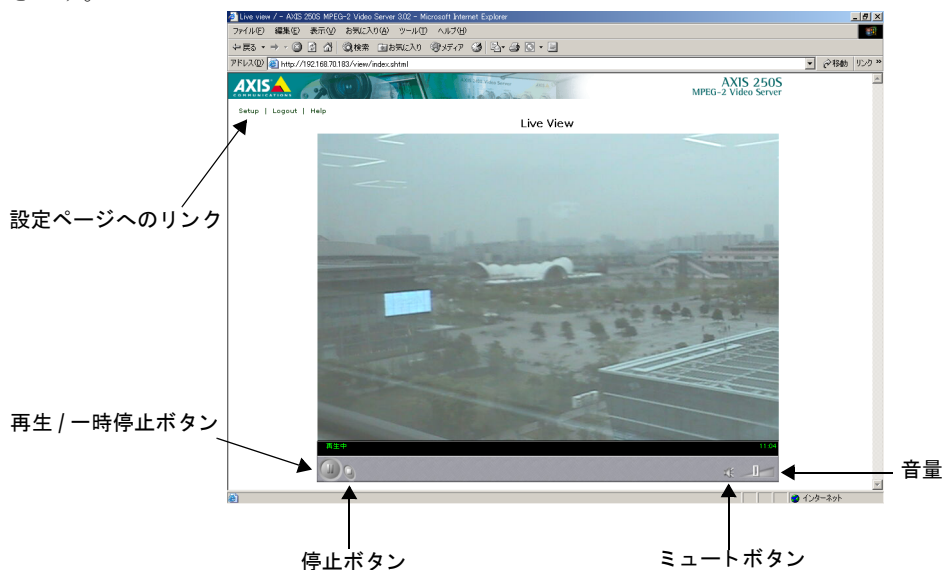
`http://192.168.70.183/`

3. [Live View] ページが表示されます。

**注意：** Internet Explorer で MPEG-2 ビデオ映像を閲覧するには、Web ブラウザの設定で署名済み ActiveX コントロールのダウンロードを有効に設定し、AXIS MPEG-2 Viewer をインストールする必要があります。AXIS MPEG-2 Viewer のインストールウィザードは、初めて AXIS 250S にアクセスした時に自動的に起動します。

## Live View を開く

どのアクセス権を持ったユーザでも自由に利用できるページが、[Live View] ページです。このページには基本アプリケーション、つまり接続されたカメラからのビデオ映像が表示されます。パン / チルト / ズームデバイスが接続されている場合は、パン / チルト / ズームを操作するコントロールバーが表示されます。[Live View] ページには、3 台のコンピュータから同時にアクセスすることができます。



## ビデオソースとの切断

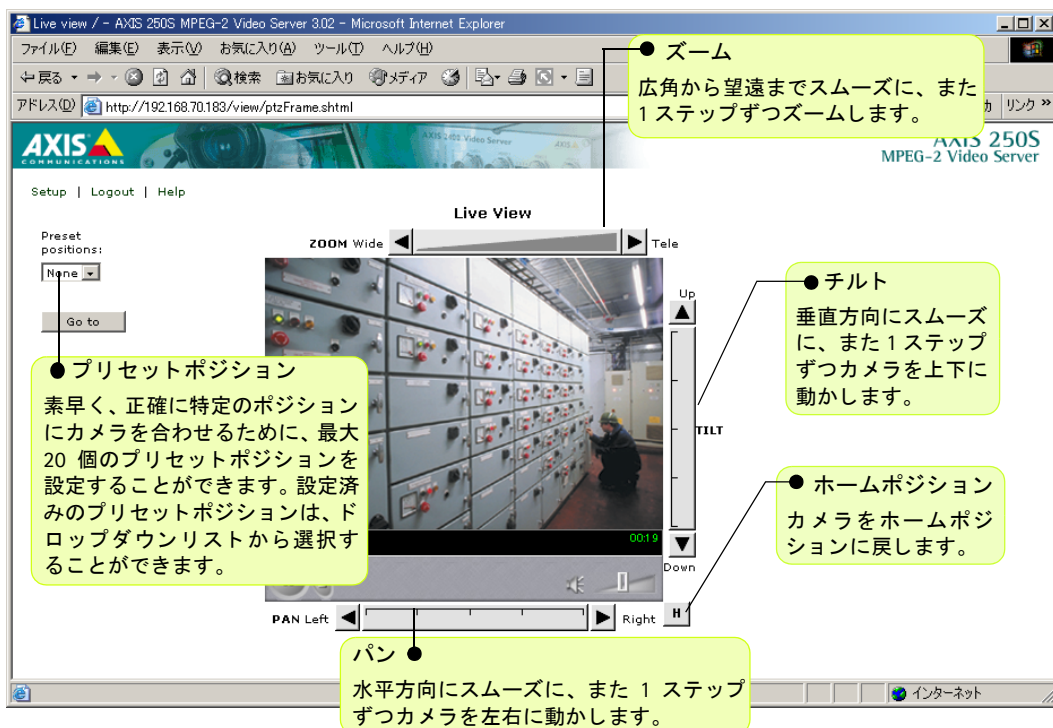
カメラまたはビデオソースに何らかの問題がある場合、黒い画面が表示されます。ビデオ信号が切断されている、ケーブルが破損している、または変調が正しく設定されていないなどが考えられます。AXIS 250S のインストールを行った管理者に相談してください。

## ビデオソースの位置制御

パン / チルト / ズームに対応したカメラを利用している場合、ポジションをあらかじめ設定して保存しておくことができます。

AXIS 250S にパン / チルト / ズームデバイスが接続されている場合、以下の図のようにパン / チルト / ズームを制御するコントロールバーを表示することができます。表示する方法については、51 ページ「Live View のレイアウト」を参照してください。

- 注意：**
- AXIS 250S は Web ブラウザを利用してパン / チルト / ズームデバイスを制御することができます。表示されるコントロールバーは、接続されているデバイスによって異なります。
  - [Live View Layout] ページのオプションを利用して [Live View] ページ上のコントロールバーの表示・非表示を切り替えることができます。
  - コントロールバーの傾斜したイメージをクリックすると、スムーズな位置調整を行うことができます。またコントロールバーの両端に表示されている矢印をクリックすると、1 ステップずつカメラ位置を移動することができます。



## イベントについて

AXIS 250S はイベントの種類に応じて様々な動作を行います。イベントの設定について使用されている用語の意味は、以下通りです。

- **Event Type** - いつ、どのようにイベントを実行するかを設定したパラメータセット。
- **Event** - システムが動作している時に発生するイベント。何らかトリガによって開始し、指定した動作を実行する。
- **Action** - イベントがトリガされた時に行う動作。たとえば、FTP サーバに画像をアップロードしたり、電子メールによる通知を行う。
- **Trigger** - イベントを開始する要因。たとえば、時間指定によるイベント、外部デバイスの信号の変化に対する反応など。

## イベントの設定

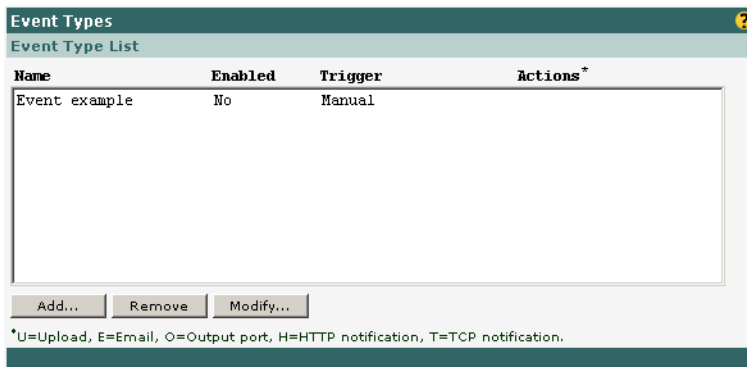
Event Type はいつ、どのようにイベントを実行するかを設定したパラメータセットです。どの程度の頻度で実行するかによりますが、一つのイベントだけを実行したり、複数のイベントを実行する場合があります。最も一般的な Event Type は、指定した FTP サーバに画像をアップロードするものです。他に、電子メールなどでイベントを通知したり、出力ポートを利用して外部デバイスを動作させたりすることができます。

### 重要！

- Event Type で画像のアップロードを行う場合、要件を満たす範囲内でできるだけ負担のかからない設定をしてください。複数のアップロードを設定することはできますが、同時にアップロード可能なイベントは3つまでです。
- Event Type を追加、修正、削除している間は、他の動作中の Event Type が停止します。トリガが有効な限り動作するよう設定された Event Type は自動的に実行を再開しますが、それ以外のは実行されません。

## 新しい Event Type を設定する

画面左側のリンクから [Event Configuration] をクリックすると [Event Types] ページが表示されます。このページには、現在設定されている Event Type の一覧が表示されます。



[Add] ボタンをクリックすると、[Event Type Setup] ページが表示されます。用途に応じて、以下の設定を行ってください。

## イベントの名前 - General

- Name - Event Type の名前を指定します。

## トリガの実行 - Respond to Trigger...

この設定は、いつイベントをトリガするかを決定します。以下のオプションから選択してください。

- **Always** - トリガ（次の「トリガの種類 - Trigger Type」を参照）が発生した時にイベントを実行します。
- **Only during time frame** - 指定した時間帯に発生したトリガによってイベントを実行します。指定した時間帯以外に発生したトリガは無視されます。トリガを有効とする曜日、開始時刻および持続時間を指定します。持続時間（Duration）は最長で 168 時間まで設定することができます。持続時間を 24 時間以上設定する場合は、いずれかの曜日を 1 つチェックするようにしてください。持続時間が 24 時間以上の曜日を 2 つ以上設定する場合は、別々の Event Type として登録してください。
- **Never** - Event Type は無効になります。

## トリガの種類 - Trigger Type

この設定は、イベントをどのようにしてトリガするかを決定します。以下のオプションから選択してください。

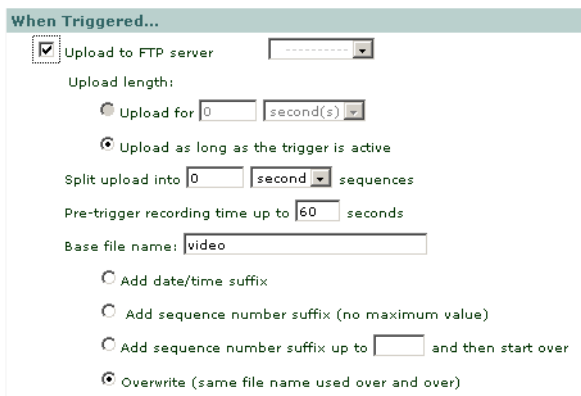
- **Input Ports** - イベントのトリガに I/O ポートの入力を利用します。複数の入力を組み合わせて利用することもできますが、イベントをトリガする前に利用するすべての入力が動作している必要があります。
- **Manual Trigger** - [Live View] ページにボタンを表示してイベントの開始と終了を手動で行えるようにします。

- **Timer - whole time frame** - 38 ページ「トリガの実行 - Respond to Trigger...」で指定したオプションにしたがって実行します。
- **Timer - periodically** - 一定の間隔でイベントをトリガします。間隔は秒、分、時間のいずれかで設定します。また、トリガを開始する時刻を指定することもできます。このオプションは、38 ページ「トリガの実行 - Respond to Trigger...」で指定したオプションにしたがって実行します。
- **Server boot** - AXIS 250S が起動、または再起動したときにイベントをトリガします。このオプションは、イベントの通知を行うオプション (44 ページ「イベントの通知」) と併用することをお勧めします。
- **Log messages** - AXIS 250S がログファイルにエントリを記録すると、イベントをトリガします。ログファイルには、Information、Warning、Critical の 3 種類があります。イベントをトリガするログファイルを選択してください。Information には Warning および Critical に属するログも含まれるため、Information を選択するとイベントをトリガする回数が最も多くなります。
- **Video loss** - ビデオ信号が切断された時にイベントを実行します。プリトリガによる録画オプションとともに利用すると、ビデオ信号が切断される前の映像を確認することができます。

## トリガ後の動作 - When Triggered...

この設定は、イベントがトリガされたときにどのような動作をするか決定します。

- **Upload to FTP server** - 画像をアップロードする FTP サーバを選択します。このオプションを設定する前に、42 ページ「FTP サーバへアップロードする」で FTP サーバを設定しておく必要があります。
  - **Upload length: Upload for** - 画像をアップロードする合計時間を指定します。時間は、秒、分、時間のいずれかで設定します。このオプションを利用すると、イベントが終了した後もアップロードを継続することができます。
  - **Upload length: Upload as long as trigger is active** - イベントが終了するとすぐにアップロードを終了します。
  - **Split upload into** - 長いビデオシーケンスを短いシーケンスに分割してアップロードします。シーケンスを分割する時間を、秒、分、時間のいずれかで設定します。このオプションは、録画が 30 分以上続くような場合にお勧めです。AXIS 250S は 30 分以上のビデオファイルを扱うことができますが、ファイルサイズが大きくなるため、FTP サーバに負担がかかることがあります。
  - **Pre-trigger recording time up to** - プリトリガを行うオプションです。AXIS 250S はトリガが発生する直前のシーケンスを保存することができ、このオプションを利用してどのようにしてトリガが発生したかを確認することができます。プリトリガで使用されなかったバッファの一部は、自動的にポストトリガの保存に使用されます。FTP サーバへの接続が完了するまでの間など、シーケンスを失うことなく FTP サーバにアップロードすることができます。





- 注意：**
- プリトリガによる録画がどの程度生成されるかは、ビットレートの設定によって異なります。音声が無使用、かつビットレートを 250 k ビット / 秒に設定した場合、プリトリガによる録画が持続する時間は最大で約 60 秒間です。
  - イベントがトリガされるとまず最初にプリトリガによる録画がアップロードされ、続いて残りの録画データがネットワークの状況に応じたフレームレートでアップロードされます。ネットワークで利用可能な帯域幅が限られている場合は、高いビットレートを設定しても希望するフレームレートは得ることはできません。
  - 高画質のビデオ映像は AXIS 250S の内部メモリを多く使用するため、録画の持続時間が短くなります。プリトリガとポストトリガの FTP サーバへのアップロードが優先されるため、ネットワークの負荷が高い状況下では [Live View] ページの画質に影響を与えることがあります。
  - プリトリガとポストトリガ用のバッファサイズは固定されています。つまり、プリトリガの録画時間を長く指定すると、ポストトリガの録画時間がその分短くなります。
  - 複数のイベントが同時に実行された場合、バッファは優先順位の高い最初のイベントによってロックされます。最初のイベントがバッファを利用しなくなった時点で、次のイベントがバッファを利用できるようになります。
- **Base file name** - 保存するファイルの名前を指定します。接尾文字を利用した場合、ファイル名は `ファイル名_接尾文字` のようになります。
  - **Add date/time suffix** - [Base file name] で指定したファイル名の後ろに、日付、時刻を追加します。
  - **Add sequence number suffix (no maximum value)** - [Base file name] で指定したファイル名の後ろに連番を追加します。
  - **Add sequence number suffix up to \_\_ and then start over** - [Base file name] で指定したファイル名の後ろに指定した番号までの連番を追加します。
  - **Overwrite (same file name used over and over)** - このオプションを選択した場合、ファイルが 1 つだけ保存され、そのファイルが常に上書きされます。
- **Activate output port** - 出力ポートを利用する場合は、このオプションを必ずチェックしてください。出力ポートは、外部デバイスの制御に利用します。
  - **Keep active during event** - イベントが持続している間、外部デバイスを動作または制御できるようにします。このオプションは、たとえばビデオシーケンスのアップロード中に補助用のライトを点灯させたい場合などに使用します。
  - **Keep active for** - 出力ポートを動作させる時間を、秒または分で指定します。

When Triggered...

Upload to FTP server

Activate output port

Keep active during event

Keep active for  second(s)

### 重要！

出力ポートは 1 つ以上のイベントによって制御することができますが、複数のイベントによって連続して出力ポートを動作させた場合、正しく動作しないことがあります。出力ポートを制御するイベントを複数使用することはできるだけ避けてください。



- Send email notification to** - イベントの発生を電子メールで通知する場合は、このチェックをオンにします。送信先のメールアドレスをオプションの横にあるフィールドに入力します。複数のメールアドレスを指定する場合は、セミコロン (;) でアドレスを区切ってください。またメールに独自のテキストを追加する場合は [Include text] チェックボックスをオンにし、横にあるフィールドにテキストを入力します。このオプションを利用する前に、29 ページ「メールサーバの設定」でメールサーバの設定を行ってください。

**When Triggered...**

Upload to FTP server [-----] ▾

Activate output port

Send email notification to [ ] (use ; to separate addresses)

Include text [ ]

- Send HTTP notification** - イベントの通知を HTTP サーバに送信する場合は、このチェックをオンにします。送信先の HTTP サーバをドロップダウンリストから選択してください。このオプションを利用する前に、44 ページ「イベントの通知」でサーバの設定を行ってください。

**When Triggered...**

Upload to FTP server [-----] ▾

Activate output port

Send email notification to [ ] (use ; to separate addresses)

Send HTTP notification to [-----] ▾

- Send TCP notification** - TCP/IP による通知を送信する場合は、このチェックをオンにします。44 ページ「イベントの通知」でサーバの設定を行ってください。

**When Triggered...**

Upload to FTP server [-----] ▾

Activate output port

Send email notification to [ ] (use ; to separate addresses)

Send HTTP notification to [-----] ▾

Send TCP notification to [-----] ▾

すべての設定を行ったら、[OK] ボタンをクリックして設定を保存します。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずに [Event Types Setup] ページを閉じます。

## FTP サーバへアップロードする

画面左側のリンクから [Event Configuration - Upload Servers] をクリックすると [Upload Servers] ページが表示されます。[FTP Server List] には現在設定されている FTP サーバの一覧が表示されます。一覧には FTP サーバの名前、IP アドレス、アップロードパス、ユーザ名が表示されます。

Name	Network Address	Upload Path	User name
MyServer	192.36.253.80		Guest

Buttons: Add..., Remove, Modify...

## FTP サーバを追加する

[Add] ボタンをクリックすると [Upload Server Setup] ページが表示されます。

**Upload Server Setup**

**FTP Server**

Name:

Network address:  (host name or IP address)

Upload path:

Additional information\*:

\* Optional information on e.g. how to access the uploaded files via a UNC address (e.g. \upload) or via an HTTP address. This information is included in email sent by events that use this upload server. See help for more information.

**Login Information**

User name:

Password:

**Advanced**

Use passive mode:

FTP port number:  (default: 21)

**Test**

Establish connection to specified FTP server

## FTP サーバの設定 - FTP Server

- **Name** - FTP サーバの名前を指定します。
- **Network address** - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を利用する場合は、[System Options - Network - TCP/IP] ページで DNS の設定を行ってください。
- **Upload path** - 画像を保存するディレクトリへのパスを指定します。指定したディレクトリが FTP サーバ上に存在しなかった場合、エラーメッセージが表示されます。

- **Additional information** - このフィールドには追加情報を入力することができます。たとえば、保存されたファイルに UNC アドレス (\\video\file1.mpeg など) を利用してアクセスできる場合、イベントが発生した時に送信される電子メールでこのアドレスを知らせることができます。

## ログイン情報 - Login Information

- **User name** - FTP サーバへのログオンに利用するユーザ名を入力します。
- **Password** - FTP サーバへのログオンに利用するパスワードを入力します。

## 高度な設定 - Advanced

- **Use passive mode** - このオプションをオンにすると、AXIS 250S はターゲットの FTP サーバに対して PASV コマンドを送信し、Passive モードによる接続を確立します。このモードは、AXIS 250S と FTP サーバの間にファイアウォールが存在する場合などに使用してください。
- **FTP port number** - FTP サーバが利用するポート番号を入力します。

## 接続テスト - Test

設定が終了したら、[Connect] ボタンをクリックします。メッセージボックスが開き、FTP サーバへの接続テストの結果が表示されます。

## 設定の変更と削除

設定を変更する場合は [FTP Server List] の一覧から FTP サーバ名をクリックして選択し、[Modify...] ボタンをクリックします。[Upload Server Setup] ページで変更を行い、[OK] をクリックします。

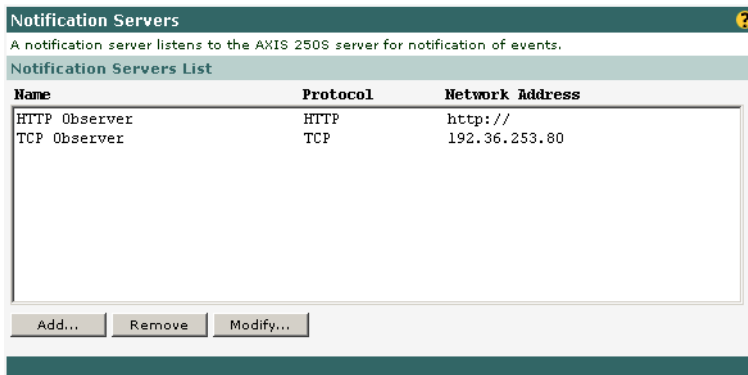
FTP サーバを削除する場合は [FTP Server List] の一覧から FTP サーバ名をクリックして選択し、[Remove...] ボタンをクリックします。削除を確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

すべての設定を行ったら、[OK] ボタンをクリックして設定を保存します。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずに [Upload Server Setup] ページを閉じます。

## イベントの通知

画面左側のリンクから [Event Configuration - Notification Servers] をクリックすると [Notification Server] ページが表示されます。イベントが発生した時に HTTP または TCP/IP による通知を送信する場合は、まず最初にこのページで設定を行う必要があります。[Notification Server list] には現在登録されているサーバの一覧が表示されますが、一覧の中には定義済みのサーバが 2 つ含まれています。ここに登録したサーバが、[Event Type Setup] ページで選択するサーバの一覧に表示されます。

イベントの通知を行うには、通常、対象となるサーバ上にスクリプトのようなものが必要となります。スクリプトは通知内容に含まれるパラメータを読み取り、何らかの動作を実行するものです。



Name	Protocol	Network Address
HTTP Observer	HTTP	http://
TCP Observer	TCP	192.36.253.80

### 重要！

- [Notification Servers] ページで行った設定は、IP アドレスの変更通知機能の設定には影響しません。

## HTTP を利用する - Notification Server Setup

[Notification Server] ページで [Add...] ボタンをクリックし、[Network protocol] ドロップダウンリストから HTTP を選択します。

The screenshot shows a dialog box titled "Notification Server Setup" with a question mark icon in the top right corner. The "Network protocol:" dropdown menu is set to "HTTP". Below this, there are several rows of input fields: "Name:", "URL:", "Custom parameters:", "User name:", "Password:", "Proxy:", "Proxy port:", "Proxy user name:", "Proxy password:", "Retry count:", and "Message:". At the bottom right, there are "OK" and "Cancel" buttons.

- **Name** - サーバの名前を指定します。
- **URL** - 情報を処理するスクリプトの URL を入力します。  
例 : `http://server/path_to_script/script.cgi`
- **Custom parameters** - オプションパラメータです。下の注意を参照してください。
- **User name/Password** - サーバへのアクセスにユーザ名とパスワードが必要な場合は、それぞれのフィールドに入力します。
- **Proxy/Proxy port** - プロキシサーバを経由してサーバにアクセスする場合は、プロキシサーバの IP アドレスとポート番号を入力します。
- **Proxy user name/Proxy password** - プロキシサーバへの接続にユーザ名とパスワードが必要な場合は、それぞれのフィールドに入力します。
- **Retry count** - 接続に失敗した時に、再接続を試みる回数を指定します。
- **Message** - 追加情報を入力します。この情報は、通知内容に追加されます。

HTTP による通知は、以下のような内容を送信します。

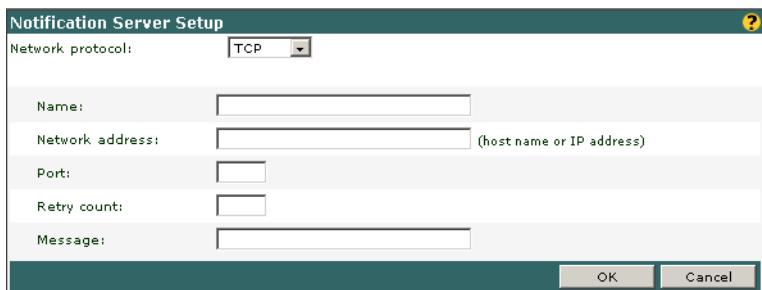
`http://server/path/script.cgi?Eventname=MyEvent&Message=MyMessage&Custom`

**注意 :** Custom フィールドを利用する場合は、以下の点に注意してください。

- パラメータとして動作するよう名前を指定する必要があります。  
例 : `http://servername/.....&CustomParameter=MyTextHere.`
- フィールドには URL エンコード化された文字を入力します。たとえば、スペースを入力する場合は、キーボードのスペースキーを押す代わりに「%20」と入力します。等号 (=) は、キーボードからそのまま入力することができます。

## TCP を利用する - Notification Server Setup

[Notification Server] ページで [Add...] ボタンをクリックし、[Network protocol] ドロップダウンリストから TCP を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Notification Server Setup" with a help icon in the top right corner. The "Network protocol:" label is followed by a dropdown menu currently showing "TCP". Below this are five input fields, each with a label to its left: "Name:", "Network address:" (with "(host name or IP address)" in smaller text to the right), "Port:", "Retry count:", and "Message:". At the bottom right of the dialog are two buttons labeled "OK" and "Cancel".

- **Name** - サーバの名前を指定します。
- **Network address** - サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を利用する場合は、System Options の [Network - TCP/IP] ページで DNS を設定しておく必要があります。
- **Port** - TCP ホストにアクセスするためのポート番号を入力します。
- **Retry count** - 接続に失敗した時に、再接続を試みる回数を指定します。
- **Message** - 追加情報を入力します。この情報は、通知内容に追加されます。

すべての設定を行ったら、[OK] ボタンをクリックして設定を保存します。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずに [Notification Server Setup] ページを閉じます。

## オーディオとビデオの設定

### ビデオの設定

AXIS 250S はアナログカメラ（または他のビデオソース）用のインターフェイスを 1 つ備えており、BNC コネクタまたは S ビデオコネクタを利用して接続することができます。ビデオの設定を行う前に、ビデオソースとなる機器が正しく AXIS 250S に接続されていること、また機器の電源が入っていることを確認してください。画面左側の [Audio & Video] リンクをクリックすると [Video] ページが表示されます。

Video Settings	
Resolution:	4CIF (720x480 / 720x576) (NTSC/PAL)
Color:	Color
Bit rate:	4000 kBit/s
Physical connector:	BNC (composite video)
Source modulation:	NTSC

- **Resolution** - 解像度は 2 種類（CIF : 352 × 240 または 4CIF : 720 × 480）から選択することができます。詳しくは、67 ページ「付録 G 技術仕様」を参照してください。
- **Color** - Color（カラー）または Black & White（白黒）から選択します。帯域幅が狭い環境の場合、Color よりも Black & White の方がシャープな画像が得られます。
- **Bit rate** - ビデオストリームが利用する帯域幅を指定します。ビットレートは 250 k ビット / 秒～8000 k ビット / 秒（8 M ビット / 秒）から選択できます。詳しくは、65 ページ「付録 E 帯域幅」を参照してください。
- **Physical connector** - ビデオソースが接続されているコネクタを選択します。
  - **BNC (composite video)** - 一般的なビデオカメラまたは他のビデオソースを接続します。
  - **Y/C (S-video)** - S ビデオカメラまたは他のオーディオ機器を接続します。
- **Source modulation** - AXIS 250S は NTSC と PAL に対応しています。お使いの機器に合った変調方式を選択してください。
  - **NTSC** - 525 本の走査線を持ち、1 秒間に 30 フレームを表示します。日本や米国で一般的に使用されています。
  - **PAL** - 625 本の走査線を持ち、1 秒間に 25 フレームを表示します。ヨーロッパで一般的に使用されています。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

## オーディオの設定

AXIS 250S は CD 品質の音声データを映像と同時に送信します。画面左側のリンクから [Audio & Video - Audio] をクリックすると [Audio] ページが表示されます。

Audio		
<input checked="" type="checkbox"/> Enable		
Audio Settings		
Quality:	Bit rate	Sample rate
	128 kbps	44.1 kHz
Input:	Line	
Volume Settings		
Master:	0 dB (-30 to 30)	
Mic input sensitivity:	High	
		Save    Reset

- **Enable** - 音声を利用する場合は、このチェックをオンにします。
- **Quality** - 使用するビットレートとサンプルレートの組み合わせを選択します。一般的に高い数値の組み合わせを選択すると音質が向上しますが、選択肢の上の方の値と比べても違いはさほどありません。デフォルト値 (128 kbps) の組み合わせでも、十分な音質を実現します。
- **Input** - 音声を接続するコネクタを選択します。
  - Line - オーディオ入力デバイスを接続します。
  - Microphone - マイクを接続します。
- **Master** - 通常このオプションは変更する必要はありません。Lineコネクタに接続しているオーディオ入力デバイスの音質に満足できない場合には、このオプションのレベルを調整してみてください。設定可能な値は -30 ~ 30 dB です。
- **Mic input sensitivity** - このオプションは接続するマイクの仕様に合わせて設定してください。設定が正しく行われている場合は、Master オプションを調整する必要はありません。[Live View] ページにアクセスし、画像の下に表示される音量スライダーを調節してください。どのオプションを設定すればよいか不明の場合は、High と Low の両方を試してみてください。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。



## ポートのステータスとパン / チルト / ズームデバイスの設定

### ポートのステータス

画面左側のリンクから [Port Status & Devices] をクリックすると [Port Status] ページが表示されます。このページには入力 (4 つ) と出力 (1 つ) のステータスが表示されます。入力の設定は、[System Options - Ports & Devices] で行ってください。

入力と出力が有効に設定されていない場合は、このページのステータスが「Not in use」と表示されます。



Port Status	
<b>Input Status</b>	
Input 1	Not in use
Input 2	Not in use
Input 3	Not in use
Input 4	Not in use
<b>Output Status</b>	
Output	Not in use

### パン / チルト / ズームデバイスのプリセットポジション

画面左側のリンクから [Port Status & Devices - Devices] をクリックすると [Devices] ページが表示されます。AXIS 250S にパン / チルト / ズームデバイスが接続されている場合は、このページでプリセットポジションを設定することができます。このページの設定を行う前に、[System Options - Ports & Devices - RS-232] ページの設定を行う必要があります。



Devices	
<b>Pan/Tilt/Zoom</b>	
Create, modify or delete preset positions for the connected PTZ device.	
	<input type="button" value="Modify..."/>

## プリセットポジションの設定

[Devices] ページの [Modify] ボタンをクリックすると [Preset Position Setup] ページが表示されます。

- 新しいポジションを追加するには、まずコントロールバーを利用して希望の画像が得られるようカメラのポジションを調整してください。[Current position] フィールドにポジション名を入力して [Apply] ボタンをクリックしてください。
- [Use current position as Home] オプションのチェックをオンにすると、現在のポジションをホームポジションとして登録することができます。ホームポジションは、Web ブラウザで AXIS 250S のビデオ映像を閲覧する時のデフォルトのポジションとなります。
- [H] ボタンをクリックすると、他のポジションから簡単にホームポジションに戻ることができます。
- 登録したプリセットポジションに移動するには、[Preset positions] ドロップダウンリストから移動先のプリセットポジションを選択して [Go to] をクリックしてください。
- 登録したプリセットポジションを削除するには、[Preset positions] ドロップダウンリストから削除するプリセットポジションを選択して [Remove] をクリックしてください。



すべての設定を行ったら、[Close] ボタンをクリックして [Preset Position Setup] ページを閉じます。

## Live View のレイアウト

AXIS 250S のホームページ、[Live View] ページのレイアウトを変更することができます。画面左側のリンクから [Live View Layout] をクリックすると [Live View Layout] ページが表示されます。

**Live View Layout** ?

Enable personal settings

**Personal Settings**

<input checked="" type="checkbox"/> Background color	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	White
<input checked="" type="checkbox"/> Text color	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	Black
<input checked="" type="checkbox"/> Background picture	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	http://
<input checked="" type="checkbox"/> Title	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	
<input checked="" type="checkbox"/> Company banner	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	http://
<input checked="" type="checkbox"/> Company banner link	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	http://
<input checked="" type="checkbox"/> Product logo	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	http://
<input checked="" type="checkbox"/> Product logo link	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	http://
<input checked="" type="checkbox"/> Description	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	
<input type="checkbox"/> Show manual trigger buttons	<input checked="" type="radio"/> Default	<input type="radio"/> Own:	Manual trigger (title above buttons)
<input type="checkbox"/> Show Pan/Tilt/Zoom controls if available			
<input checked="" type="checkbox"/> Show setup link*			

\* **Caution!** Unchecking the box for *Show setup link* will remove the setup link from the product's Home Page. The Administration Tools will then only be accessible by entering the full operator address into the address/URL field of a browser. The operator address for this product is <http://192.168.70.183/operator/>.

Save Reset

## レイアウト変更を反映する

[Personal Settings] に含まれるオプションの変更を [Live View] ページに反映するには、まず [Enable personal settings] のチェックをオンにしてください。その後で、変更したい項目のチェックボックスをそれぞれオンにします。ユーザ独自の設定を有効にするには右側の [Own] オプションをクリックし、値を選択または入力します。

[Personal Settings] で設定可能なオプションは、以下のとおりです。

- **Background color** - 背景色を変更します。リストボックスから背景に使用する色を選択します。
- **Text color** - 文字色を選択します。リストボックスから文字に使用する色を選択します。
- **Background picture** - 背景に使用する画像を URL で指定します。
- **Title** - 画像の上に表示するタイトル文字を入力します。
- **Company banner** - 表示するロゴ (JPEG または GIF) の画像を URL で指定します。
- **Company banner link** - [Live View] ページ上のロゴから別のサイトへのリンクを張ることができます。リンク先の URL を指定します。
- **Product logo** - AXIS 250S のロゴを変更することができます。画像への URL を指定します。
- **Product logo link** - AXIS 250S のロゴから別のサイトへのリンクを張ることができます。リンク先の URL を指定します。
- **Description** - 画像の下に表示する説明文を入力します。

- **Show manual trigger buttons** - トリガボタンを表示して手動でイベントを開始したり停止したりすることができます。このオプションの横にあるフィールドにテキストを入力すると、トリガボタンの上にそのテキストを表示することができます。
- **Show Pan/Tilt/Zoom controls if available** - パン / チルト / ズームデバイスが接続されている時にコントロールバーを表示します。
- **Show setup link** - [Setup] リンクを表示します。このチェックをオフにすると、[Live View] ページから設定ページにアクセスできなくなります。

すべての設定を行ったら、[Save] ボタンをクリックして設定を保存します。[Reset] ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

**注意：** [Show setup link] のチェックをオフにすると、[Live View] ページ上の [Setup] リンクが非表示になります。このような場合は、Web ブラウザの [アドレス] フィールドに以下のアドレスを入力して設定ページにアクセスください。

Operator 権限でアクセスする場合：[http://AXIS 250S の IP アドレス /operator/](http://AXIS_250SのIPアドレス/operator/)  
Administrator 権限でアクセスする場合：[http://AXIS 250S の IP アドレス /admin/](http://AXIS_250SのIPアドレス/admin/)

## 付録 A その他の IP アドレスの設定方法

### 重要！

AXIS 250S は Microsoft Internet Explorer 6 (Service Pack 1 を適用) 以上が動作する Windows 2000 または XP で利用することができます。

arp コマンドによる IP アドレスの設定方法以外に、以下の方法を利用して AXIS 250S に IP アドレスを設定することができます。

方法	OS	参照
<b>BOOTP</b> システム上で BOOTP デーモンが実行されている必要があります。この方法は、ネットワーク全体で利用することができます。要求を送信すると、デーモンはデバイスの物理アドレスと一致するエントリを検索し始めます。一致するエントリが見つかった場合、デーモンはそのデバイスに対する IP アドレスを設定します。	UNIX	54 ページ「UNIX 環境で IP アドレスを設定する」
<b>DHCP</b>	Windows	26 ページ「IP アドレスを自動的に設定する - Automatic IP Configuration」

- 注意：**
- AXIS 250S の電源が入っていること、およびネットワークに接続されていることを確認してください。
  - AXIS 250S をインストールする前に、ネットワーク管理者から未使用の IP アドレスを入手してください。
  - Windows XP (Home Edition) では権限は特に必要ありませんが、Windows 2000 および XP (Professional Edition) では Administrator の権限が必要です。また UNIX 環境では root の管理者権限が必要です。
  - AXIS 250S は製品の底面ラベルに記載されているシリアル番号に基づいた唯一の物理アドレスを持っています。物理アドレスは 00:40:8c:xx:yy:zz という形式で表されます。AXIS 250S をインストールする際に、この物理アドレスが必要になります。

## UNIX 環境で IP アドレスを設定する

BOOTP を利用するには、以下の手順にしたがってください。

- 注意：**
- システム上で BOOTP デーモンが実行されている必要があります。この方法は、ネットワーク全体で利用することができます。
  - BOOTP サーバから取得するパラメータはサーバ側の設定にもよりますが、通常、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイです。

- お使いのシステムのブートテーブルに以下の行を追加します。  
通常、`/etc/bootptab` ファイルを利用して行います。

```
ホスト名 :ht= ハードウェアタイプ :vm= ベンダマジック :\  
:ha= ハードウェアアドレス :ip=IP アドレス :\  
:sm= サブネットマスク :gw= デフォルトゲートウェイ
```

各フィールドには、以下の値を使用します。

ht = ether (あるいは ethernet)  
vm = rfc1048 (あるいは auto)  
ha = AXIS 250S の物理アドレス  
ip = AXIS 250S の IP アドレス  
sm = サブネットマスク  
gw = デフォルトゲートウェイ

```
videoserv:ht=ether:vm=rfc1048:\  
:ha=00408c100086:ip=172.21.1.200:\  
:sm=255.255.255.0:gw=172.21.1.199
```

- 必要なら、お使いのシステムのホストテーブルやネーミングサービスのデータベースを更新します。
- まだ動作していなければ、BOOTP デーモンを起動します。これは、一般的に `bootp` コマンドを利用して実行します。
- AXIS 250S を再起動し、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。

## 付録 B      トラブルシューティング

AXIS 250S をご利用頂くなかで疑問が生じた場合、この付録を参照して問題の解決に役立ててください。症状、考えられる原因および対応処置を、それぞれ表に示します。

### ファームウェアを確認する

問題の解決にとりかかる前に、まず AXIS 250S にインストールされているファームウェアのバージョンを確認してください。更新されたファームウェアがある場合、問題の修正が行われていることがあります。詳しくは、59 ページ「付録 C ファームウェアの更新」を参照してください。

### サーバレポート

サーバレポートには、AXIS 250S のパラメータリストなど、重要な情報が含まれています。詳しくは、32 ページ「ログファイルとサーバレポート」を参照してください。

### ログファイル

AXIS 250S のログファイルには、AXIS 250S 内で発生したイベントが記録されています。何らかの問題が発生した場合は、解決を行うための診断ツールとして使用できます。詳しくは、32 ページ「ログファイルとサーバレポート」を参照してください。

### IP アドレスに ping する

ping (Packet Internet Groper) は、特定のアドレスにパケットを送信し、それに対応する応答を待つその IP アドレスが有効かどうかを確認するコマンドです。ping を利用すれば、ネットワーク上の AXIS 250S に対し、IP アドレスの競合があるかどうかを確認できます。

AXIS 250S をネットワークから外し、56 ページ「症状、考えられる原因および対処方法」以降を参照しながら、以下の手順にしたがってください。ping を実行し、ネットワークにおける TCP/IP に関連する問題の原因をつきとめます。

1. AXIS 250S に接続されているネットワークコネクタを外します。
2. DOS 窓 (MS-DOS プロンプト、コマンドプロンプト) を開きます。
3. ping x.x.x.x と入力します。x.x.x.x は、AXIS 250S に割り当てた IP アドレスです。

応答の結果により、問題の原因についての情報が得られます。ping コマンドの応答に対応する対処方法を、以下の表に示します。

ping の応答	原因と対処方法
Reply from...	IP アドレスが既に使用されており、重複して使用することはできません。新しい IP アドレスを入手してください。
Destination host unreachable	AXIS 250S が利用可能なサブネット内にありません。新しい IP アドレスを入手してください。
Request timed out	IP アドレスは未使用です。AXIS 250S に割り当てて、使用できます。

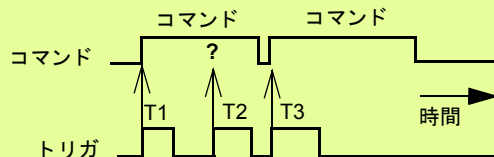
## 症状、考えられる原因および対処方法

症状	考えられる原因	対応処置
Web ブラウザから AXIS 250S にアクセスできない	IP アドレスが他のデバイスによって既に使用されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>AXIS 250S をネットワークから外します。</li> <li>ping を実行します (55 ページ「IP アドレスに ping する」を参照)。ping の結果に基づいて、対処します。</li> </ol> <p><b>注意：</b> ping コマンドが Request timed out... という応答を返した場合、割り当てられた IP アドレスは有効とみなされています。AXIS 250S の電源を入れなおしてから、ping コマンドを再度実行してください。</p>
	IP アドレスが別のサブネットに存在している	<p>ping を実行します (55 ページ「IP アドレスに ping する」を参照)。ping コマンドが Destination host unreachable のような応答を返した場合、IP アドレスは別のサブネット上にあります。次の手順にしたがってください。</p> <p>Windows 環境の場合、AXIS 250S の IP アドレスにクライアントコンピュータと同じサブネットを使用しているか確認してください (以下の例は、Windows 2000 の場合です)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>デスクトップにある [マイネットワーク] アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</li> <li>[ローカルエリア接続] アイコンをダブルクリックし、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>[ローカルエリア接続のプロパティ] から [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] が表示されます。</li> <li>たとえばクラス C の場合、ピリオドで区切られた IP アドレスの内、最初の 3 つの数字が、AXIS 250S に割り当てた IP アドレスと同じであるか確認します。もし違っている場合、AXIS 250S は別のサブネット上にあり、使用しているコンピュータから IP アドレスを設定できません。AXIS 250S と同じサブネット上にあるコンピュータから設定を行ってください。</li> </ol>
	IP アドレスが変更される	AXIS 250S を DHCP や BOOTP サーバの動作していないネットワークに接続し、ARP を利用して手動で IP アドレスの割り当てを行います。Web ブラウザから AXIS 250S の設定ページへアクセスし、[System Options - Network - TCP/IP] ページで [Manual IP configuration] が選択されていることを確認してください。
	他のネットワークに関連する問題	ネットワークケーブルを交換する。 クロスケーブルを使用し、ローカルコンピュータと AXIS 250S を接続してネットワークインターフェイスのテストをします。
Power インディケータが常時点灯しない	外部電源の故障	専用の外部電源アダプタ (PS-K) を使用しているか確認します。



症状	考えられる原因	対応処置
Network インディケータが赤色で点灯する	ケーブル接続の問題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケーブルが使用可能か確認します。ネットワーク上にあるホストに対し、ping コマンドを実行してください。</li> <li>2. ケーブル接続に問題がなく、ネットワークに接続できている場合は、次のような応答が返されます。 Reply from...</li> </ol>
Status インディケータがゆっくりと赤色で点滅する	本体の故障	販売店にお問い合わせください。
AXIS 250S はローカルに動作するが、ルータを越えて動作しない	ファイアウォールによる保護	インターネットのファイアウォール設定について、システム管理者に確認してください。
	デフォルトゲートウェイが必要	デフォルトゲートウェイの設定について、システム管理者に確認してください。
画像が表示されない	接続の問題	ビデオソースとなるカメラなどが正しくAXIS 250Sに接続されているか確認してください。
	ディスプレイのプロパティが正しく設定されていない	ご利用のコンピュータに接続されているディスプレイのプロパティを確認してください。[画面の色]の設定は <b>High Color (16 ビット)</b> 以上に設定してください。2 つ以上のビデオ信号を利用する場合は、 <b>True Color (32 ビット)</b> を設定してください。
画像の更新が遅い	グラフィックカードのドライバが古い	更新されたドライバが入手できる場合は、最新のドライバをインストールしてください。また DirectX 診断ツールを起動して、DirectDraw アクセラレータが使用可能になっているか確認してください。[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行 ...] を選択し、名前に DxDiag.exe と入力して [OK] をクリックします。[ディスプレイ] タブをクリックして [DirectX の機能] で確認してください。
	他のアプリケーションが DirectDraw アクセラレータを使用している	DirectDraw を利用するアプリケーションを終了してから AXIS 250S の [Live View] ページにアクセスしてください。DirectDraw を利用するアプリケーションには、ビデオ会議ソフトウェア、Web テレビ、ビデオ再生ソフト、ビデオ編集ソフトウェアなどがあります。
	グラフィックカードにハードウェアアクセラレータを利用するための十分なメモリが搭載されていない	ディスプレイの解像度を低くするか、画面で使用される色を少なくしてください。デスクトップ上でマウスを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。[設定] タブを選択して設定を変更してください。
画質がよくない、画像が正しく表示されない	グラフィックカードのドライバが古い	上記の「画像の更新が遅い」を参照してください。
	ライン入力のスイッチの設定が間違っている	AXIS 250S を他のデバイスと並列に接続する場合は、スイッチを <b>Off</b> に設定してください。また、他の機器を接続しない場合は、スイッチを <b>On</b> (デフォルト設定) にしてください。

症状	考えられる原因	対応処置
AXIS MPEG-2 Viewer のインストールウィザードが繰り返し起動する	新しいバージョンのソフトウェアをインストールしようとしているが、Internet Explorer のキャッシュに古いソフトウェアの情報が残っている	Internet Explorer のメニューから [ツール] - [インターネットオプション] を選択し、[全般] タブを表示します。[インターネット一時ファイル] から [ファイルの削除 ...] をクリックしてキャッシュをクリアします。
音質が悪い	サウンドカードのドライバが古い	ご利用のサウンドカードで、最新のドライバがインストールされているか確認してください。
スクリプトを利用したトリガ動作に問題が発生する	I/O ポートで、プラス / マイナスへの両方の推移でトリガ (ダブルエッジトリガ) できない。	すばやく連続して発生する反復的なトリガ条件は、認識されない可能性があります。これは、最初のトリガイベントによって起動されるコマンドが完全に実行されないうちに2番目のイベントが発生するためにおこる現象です。図で示すと、以下のようになります。



処理に比較的に長い時間のかかるコマンド (例: mail、FTP など) を利用した場合、特にプリ / ポストトリガバッファを送信する際にこの傾向が強くなります。トリガの間隔を現在よりも長めに設定してみてください。

**注意:** この章をお読みになった後もまだ問題が解決しない場合は、Axis のホームページにアクセスし、FAQ をご確認ください (<http://www.axiscom.co.jp/>)。

## 付録 C ファームウェアの更新

AXIS 250S のファームウェアは内蔵のフラッシュメモリに保存されています。他の ROM デバイスと同様に、電源を切った後もデータを保持するシリコンチップとして提供されます。フラッシュメモリの特徴は、データの消去と書き込みができることです。つまり、新しいファームウェアを入手したらすぐに AXIS 250S にインストール可能であり、部品の交換のような作業は必要ありません。新しいファームウェアは、ネットワーク経由で AXIS 250S にインストールすることができます。

### 新しいファームウェアを入手する

AXIS 250S の最新ファームウェアは、Axis から無料で提供されます。インターネット経由で入手することができます (<http://www.axiscom.co.jp/>)。

### ファームウェアを更新する

ファームウェアの更新に関連する注意書きがある場合は、内容をよくお読みになってからファームウェアの更新を行ってください。

#### 重要！

- ファームウェアのフラッシュローディングは、通常 30 秒～ 10 分程で完了します。場合によってはもう少し時間がかかることがありますので、フラッシュローディングを開始してから最低でも 20 分間はそのまま待ってから、AXIS 250S の再起動を行ってください。フラッシュローディングが失敗したと思われる場合でも、同様に待ってください。
- 適切な環境下で実行すれば、この方法を利用して安全にファームウェアをアップグレードできます。アップグレードが正しく行われなかった場合は、故障の原因となることがあります。誤ったアップグレード手順による故障については、Axis は修理費用を請求させていただきます。

1. AXIS 250S の電源を一旦オフにしてから、また電源をオンにします。
2. DOS 窓 (MS-DOS プロンプト、コマンドプロンプト) を開きます。cd コマンドなどを利用して、新しいファームウェアが保存されているディレクトリに移動します。
3. 以下のコマンドを入力して FTP セッションを開始します。x.x.x.x には、AXIS 250S に割り当てた IP アドレスを入力します。  
ftp x.x.x.x
4. AXIS 250S に root と入力してログインします。パスワードには、root 用のパスワードを入力します。root のデフォルトパスワードは pass です。
5. bin と入力して Enter キーを押します (FTP をバイナリモードに変更します)。  
hash と入力して Enter キーを押します (更新の状況を表示します)。
6. AXIS 250S に新しいファームウェアをダウンロードします。以下のコマンドを入力してください。xxx には、ファームウェアのバージョン番号が入ります。  
put 250S\_xxx.bin flash\_all  
フラッシュローディングが開始すると、Power インディケータがオレンジ色と緑色で交互に点滅します。最終的に Power インディケータが緑色に点灯するまでは絶対に電源を外さないようにしてください。
7. フラッシュローディングが完了すると、FTP プロンプトに戻ります。bye または quit と入力して FTP セッションを終了します。

## 付録 D 各種コネクタ

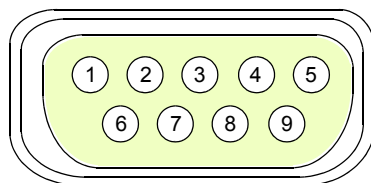
各種コネクタの概要について説明します。

### RS-232 コネクタ

AXIS 250Sは、9ピンD-subコネクタを備えています。RS-232ポートの物理的なインターフェイスとして、パン/チルト/ズームカメラなどのデバイスをリモートで操作するために使用します。

RS-232コネクタのピン配列は、以下の図のとおりです。

ピン	機能
1	CD
2	- RXD
3	- TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	RI



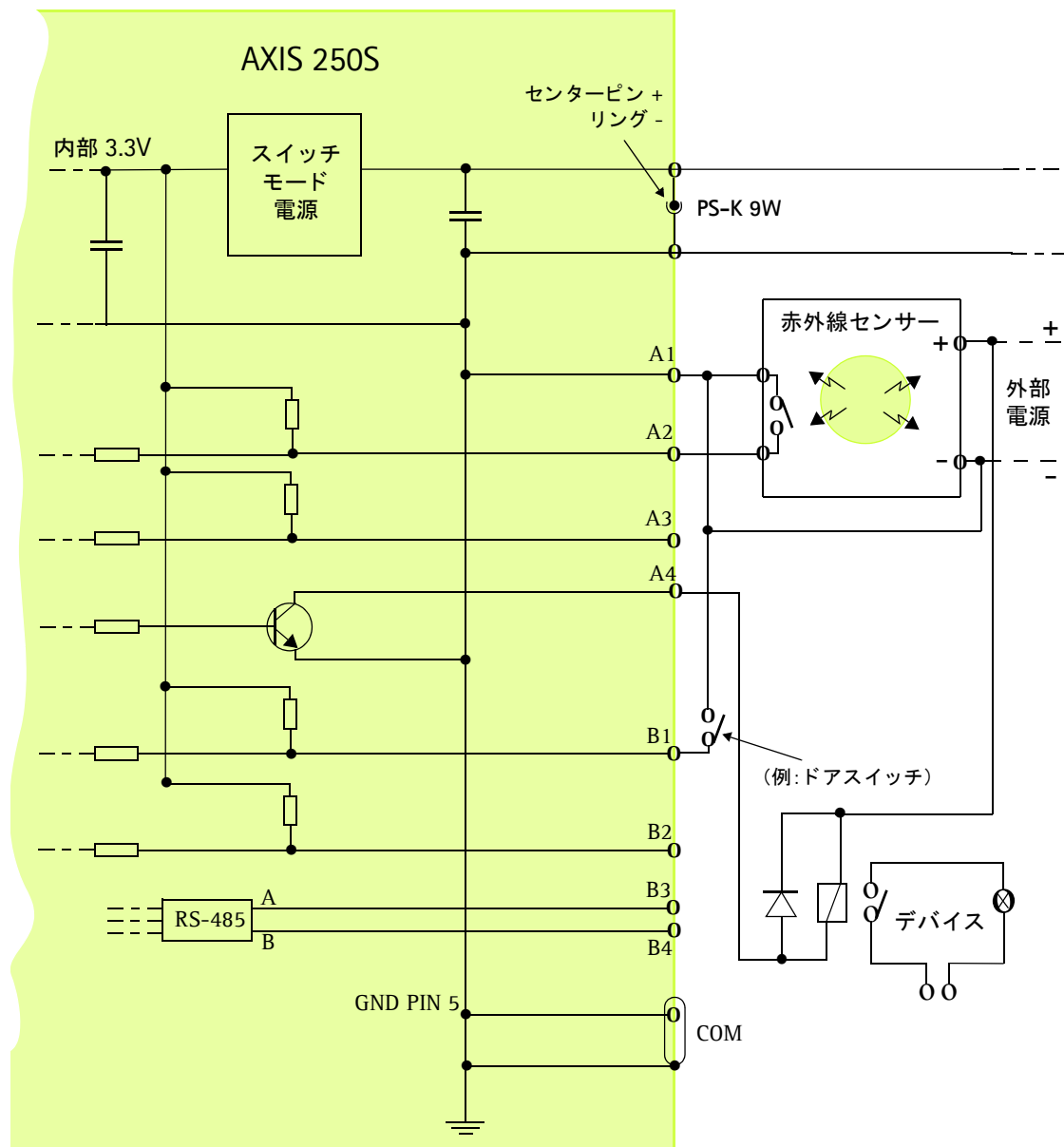
### I/O コネクタ

4ピンのI/O-AコネクタとI/O-Bコネクタをリアパネルに装備しています。I/Oコネクタは、デジタル入力を4つ、デジタル出力を1つ、RS-485およびGNDへのインターフェイスを提供します。

### コネクタのピン配列

ピン	機能	説明
A1	GND	
A2	デジタル入力 1	動作させるには GND に接続します。
A3	デジタル入力 2	動作させるには GND に接続します。
A4	デジタル出力	最大負荷 100mA、最大電圧 24V DC。この出力は、NPN トランジスタオープンコレクタ対応（エミッタ付）でピン 1 に接続されています。外部リレーとともに利用する場合は、過度電流を避けるためにダイオードを負荷と並列に接続する必要があります。
B1	デジタル入力 3	動作させるには GND に接続します。
B2	デジタル入力 4	動作させるには GND に接続します。
B3	RS485A	RS-485/422 - A (non-inverting)。日本では対応しておりません。
B4	RS485B	RS-485/422 - B (inverting)。日本では対応しておりません。

I/O コネクタ (A・B) の回路図



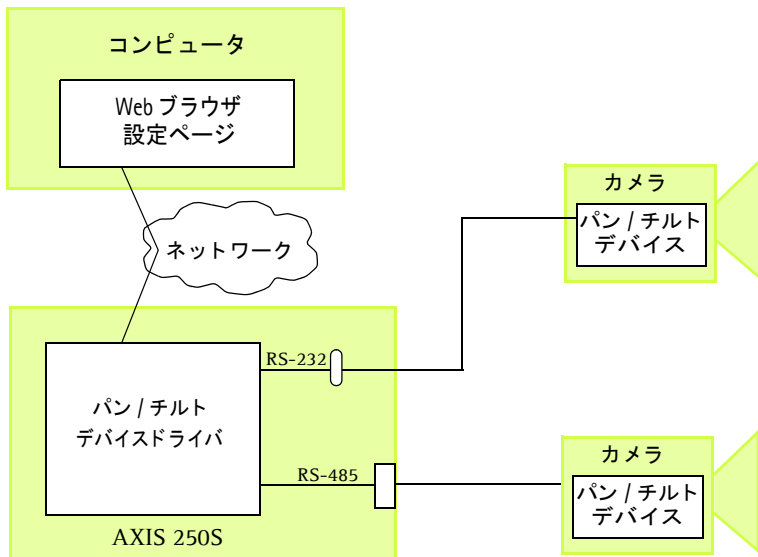
## パン / チルト / ズームデバイスを接続する

AXIS 250S は様々なパン / チルトデバイスのドライバに対応しています。利用するドライバは、[System Options - Ports & Devices - RS-232] ページから選択することができます。

**注意：** 日本国内で対応しているパン / チルト / ズームカメラは以下の 6 種類です（2003 年 5 月現在）。最新の情報については、Axis のホームページをご覧ください（<http://www.axiscom.co.jp/>）。

- Sony 社製：EVI G20/D30/D100
- Canon 社製：VC-C3/VC-C4/VC-C4R

AXIS 250S を、コンピュータ、およびパン / チルトデバイスに接続した構成図を以下に簡単に示します。



## 設定手順

### 1. 設定ページにアクセスする

適切なケーブルを利用して、パン / チルト / ズームデバイスを RS-232 ポートに接続します。Web ブラウザから AXIS 250S にアクセスして [Live View] ページを表示します。左上の [Setup] リンクをクリックして Administrator のアクセス権を持つユーザで設定ページにログインします。

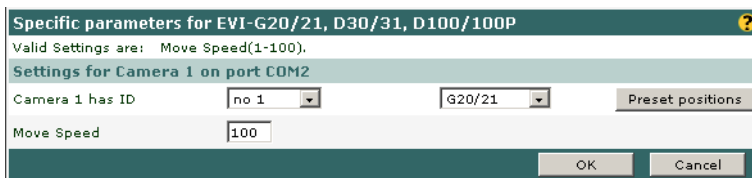
### 2. ドライバを選択する

[System Options - Ports & Devices - RS-232] をクリックします。[Usage] ドロップダウンリストから Pan/Tilt/Zoom を選択します。

[Pan/Tilt driver] ドロップダウンリストから利用するドライバを選択します。ドライバ固有の設定がある場合は [Modify...] ボタンをクリックします。

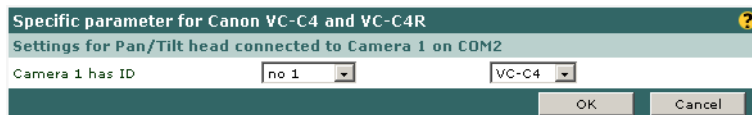
### 3. ドライバ固有の設定

[Usage] ドロップダウンリストから **Sony EVI-G20/D30/D100** を選択して [Modify...] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



- **Camera 1 has ID** - 最初のリストボックスからビデオ入力に接続されているカメラの ID を選択します。Sony EVI カメラはデイジーチェーンを利用した接続をした場合、チェーンの最初に接続されたカメラには ID 1、2 番目に接続されたカメラには ID 2 が付与されます。右側のリストボックスから、接続されているカメラの種類を選択します。
- **Move Speed** - 動作スピードを指定します。指定できる値は 1 ~ 100 です。

[Usage] ドロップダウンリストから **Canon VC-C4/V-C4R** を選択して [Modify...] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



- **Camera 1 has ID** - 最初のリストボックスからビデオ入力に接続されているカメラの ID を選択します。Canon VC-C4/VC-C4R カメラはデイジーチェーンを利用した接続をした場合、チェーンの最初に接続されたカメラには ID 1、2 番目に接続されたカメラには ID 2 が付与されます。右側のリストボックスから、接続されているカメラの種類を選択します。

設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。[Cancel] ボタンをクリックすると、設定を保存せずにドライバ固有の設定ページを閉じます。

#### 重要！

- Canon VC-C3 を選択した場合、ドライバ固有の設定は必要ありません。
- AXIS 250S は様々なパン / チルト / ズームデバイスとの動作テストを行っておりますが、それらのデバイスで利用されているドライバや特定のプロトコルとの互換性について、Axis は一切の保証を致しません。

### 4. プリセットポジションの設定

8. [COM Port RS232] ページに戻ります。すべての設定が終了したら、[Save] ボタンをクリックします。

9. [Port Status & Devices - Devices] をクリックして [Devices] ページを表示します。[Modify...] ボタンをクリックして、パン / チルト / ズームカメラ用のプリセットポジションを設定します。

## 制御と監視

Web ブラウザの URL に HTTP リクエストを入力し、以下のことを実行することができます。

- リレー出力を上げたり、下げたりする。
- 4 つのデジタル入力のステータスを監視する。

これらの機能を利用するには、管理者 (root) の権限が必要です。root でログオンし、root 用のパスワードを入力します。root 用のデフォルトパスワードは pass に設定されています。

## リレー出力

対応するリレー出力を利用して、100mA で最大 24V AC/DC の負荷をかけることができます。リレーを追加することにより、さらに負荷を増やすことも可能です。

リレー出力の制御は、以下の URL を利用します。

**例 1 :** - 出力 1 を ON に設定

```
http://AXIS 250S の IP アドレス /axis-cgi/io/output.cgi?action=1:/
```

**例 2 :** - 出力 1 に 2 つの 300ms パルスを 500ms 間隔で設定

```
http://AXIS 250S の IP アドレス /axis-cgi/io/output.cgi?action=1:/300¥500/300¥
```

**例 3 :** - 出力 1 を ON に設定する前に 1 秒待つ

```
http://AXIS 250S の IP アドレス /axis-cgi/io/output.cgi?action=1:1000/
```

## デジタル入力

4 つのデジタル入力を利用して、デバイスによるトリガによってイベントを実行するよう AXIS 250S を設定することができます。たとえば、デジタル入力にモーション検知デバイスを接続し、デバイスが動作するとイベントをトリガすることができます。

## デジタル入力のステータス

上記のリレー出力と同様の方法で、デジタル入力のステータスを取得することができます。

**例 :** - ポート 1、2、3、4 を監視する。

```
http://AXIS 250S の IP アドレス /axis-cgi/io/input.cgi?check=1,2,3,4
```

AXIS 250S は、以下のようにポート 1 ~ 4 のステータスを表示します。

```
Input 1 = 0
Input 2 = 1
Input 3 = 0
Input 4 = 0
```



## 付録 E 帯域幅

ネットワークはそれぞれ固有の特徴を持ち、またそれぞれ利用可能な帯域幅も異なります。AXIS 250S のオーディオとビデオの設定は、ご利用のネットワークに合わせて調整を行う必要があります。

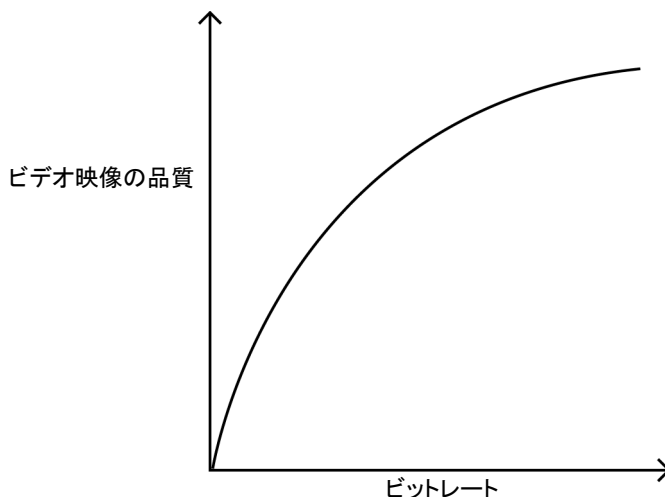
### ビデオのビットレート

ビデオのビットレートとは、1 秒間に転送されるビデオデータの量を表したものです。AXIS 250S の設定では、250、500、1000、2000、4000、6000、8000k ビット / 秒のいずれかの値を選択することができますが、高いビットレートを選択するとネットワークへの負荷が高くなります。高いビットレートを設定する前に、まず以下の点について確認してください。

- ご利用のアプリケーションは、高品質のビデオ映像を必要としていますか？様々なビットレートでビデオ映像の閲覧や MPEG-2 ファイルのアップロードを試してみてください。
- AXIS 250S を利用しているネットワーク上で帯域幅に依存するサービスが他にありますか？ AXIS 250S で設定したビットレートによって、他のサービスに影響は出ませんか？
- 何台のクライアントコンピュータがビデオ映像に同時にアクセスすることが予想されますか？ローカルエリアネットワーク上で、ビデオ映像に同時にアクセス可能なクライアントは 3 台までです。

### 画質とビットレート

以下に、ビデオ映像の品質とビットレートの関係を表す簡単なグラフを示します。



### その他の検討事項

- 画像のアップロードを実行するイベントは 3 つ以上設定できますが、同時刻にアップロード可能なイベント数は 3 つまでです。
- 同じネットワーク上に複数の AXIS 250S をインストールした場合、必要とされる帯域幅が著しく増加します。

## 付録 F 保証とサポートについて

### 保証

AXIS 250S は、お買い上げ頂いてから一年間、センドバックによる無償保証が付いております。ただし、製品に付属の「お客様登録カード」をお送り頂いた方みのサポートとなります。また、有償で保証期間を一年間だけ延長することができます。詳しくは、お買い上げの販売店にご連絡ください。なお、保証期間終了後の故障に関しては、実費負担となります。

### 技術サポート

Axis 製品に関する技術的なご質問、および保守に関するお問い合わせは、Axis 技術サポートセンターまでご連絡ください。また、弊社ホームページにおいて製品情報、FAQ/ 参考資料、マニュアル等を公開しています。

お問い合わせをいただく前に、是非弊社ホームページ (<http://www.axiscom.co.jp/>) をご覧ください。電話による技術サポートの受付時間は、以下のとおりです。

受付時間：月～金（土日、祝・祭日を除く） 9:00 ～ 17:00（12:30 ～ 13:30 を除く） TEL: 03-5531-8044 FAX: 03-5531-8042 E-mail: <a href="mailto:info@axiscom.co.jp">info@axiscom.co.jp</a>
---

お問い合わせいただく場合は、事前に以下の事項についてご確認ください。また、メールでのお問い合わせについては、回答までにお時間をいただく場合がございます。どうぞご了承ください。

- 製品名
- 製品のバージョン
- ご使用のオペレーティングシステムおよび適用サービスパック
- ネットワーク環境、および使用プロトコル
- 現象（具体的なエラーメッセージなど）
- その他、気付いた点

## 付録 G 技術仕様

### システム要件

AXIS 250S はインターネット標準の TCP/IP プロトコルを採用し、Windows 2000 および Windows XP で利用することができます。ビデオ映像の閲覧に必要なソフトウェアは、Microsoft Internet Explorer 6 (Service Pack 1 を適用) 以上、DirectX 8.1 以上、Windows Media Player 7.1 以上です。

### インストール

RJ-45 ツイストペアケーブルによる物理的な接続。10BASE-T イーサネット、100BASE-TX ファーストイーサネットに対応。

### 管理

Web ベースの設定ページを利用した、リモートによる設定やステータス管理。

### 圧縮

MPEG-2 を採用。

### ビデオに関する機能

解像度、カラー、およびビットレートの設定が可能。

### BNC 入力

コンポジットビデオ (終端なしまたは 75 オーム) 用の入力。NTSC と PAL に対応。

### Y/C 入力

S ビデオ用の入力。NTSC と PAL に対応。

### オーディオ入力

ステレオ / モノラルマイク用の入力 (φ 3.5 ミニジャック) とステレオ / モノラル音声信号受信用の入力 (φ 3.5 ミニジャック) を装備。

- マイク入力 - High sensitivity を選択した場合、最大 : -39.0 dBu (25 mVpp)  
Low sensitivity を選択した場合、最大 : -18.1 dBu (270 mVpp)
- ライン入力 - 最大 : +2.7 dBu (3.0 Vpp)

### 対応ネットワークプロトコル

HTTP、FTP、SMTP、NTP、ARP、DHCP、BOOTP。

### I/O-A コネクタ

デジタル入力 (最大 12V) を 2 つ、デジタル出力 (最大 24V、0.1 A) を 1 つ装備。ピン 1 は GND に接続。

### I/O-B コネクタ

デジタル入力 (最大 12V) を 2 つ装備。

### プリ / ポストトリガバッファ

プリ / ポストトリガ画像の記憶領域は最大で約 3M バイト。低いビットレート使用時には約 1 分間の録画が可能。

### シリアルコネクタ

9 ピン D-Sub RS-232 (最大 115 Kbps)。

### 対応パン / チルト / ズームカメラ

Sony 社製 : EVI-G20/D30/D100

Canon 社製 : VC-C3/VC-C4/VC-C4R

### セキュリティ

マルチユーザ、マルチレベルパスワードによる保護。内蔵ファイアウォールによる IP フィルタリング。

### 動作環境

温度 : 5 ~ 50°C、湿度 : 8 ~ 80% (結露不可)

### 認可 - EMC

- VCCI - クラス B
- EN 55022:1998 (CISPR 22:1997), Class B - Emission, Europe.
- EN 55024:1998 - Immunity, Europe. (Line input only. The Mic input may be subject to interference from nearby radio transmitters.)
- EN 61000-3-2:1995+A1+A2+Corrig.+A14 - Power, Harmonic current emission.
- EN 61000-3-3:1995+A1 - Power, Flicker and inrush current.
- EN 61000-6-2:1999
- FCC part 15, Subpart B, Class B demonstrated by compliance with EN 55022 (CISPR 22)
- C-Tick AS/NZS 3548 - Australia.

### 安全規格

EN60950, CSA.

### 寸法

高さ : 27mm、幅 : 112mm、長さ : 133mm、重さ : 0.32kg (外部電源を除く)

### ハードウェア

MPEG-2 圧縮チップ、ETRAX 100LX (32 ビット RISC 100 MIPS CPU)、16M バイト RAM、4M バイトフラッシュ PROM。

### 電源

外部電源アダプタ (PS-K) : 9V DC、9W

## ソフトウェア

AXIS MPEG-2 Viewer。Microsoft Internet Explorer 用の Axis ActiveX コンポーネントで、AXIS 250S に付属。

## ファイルサイズ

AXIS 250S により配信される画像のおおよそのファイルサイズは、以下の計算式から求められます。

$$\frac{(B_a + B_v) \times 1000 \times 60}{8} \text{ バイト / 秒}$$

B<sub>a</sub> = 音声のビットレート(kビット/秒、音声を利用しない場合は0)、B<sub>v</sub> = ビデオのビットレート(kビット/秒)。

すべての仕様は予告なく変更されることがあります。



## 索引

- A**
- Allowed IP Address ページ 24
  - Anonymous Login オプション 22
  - Audio ページ 48
  - AXIS MPEG-2 Viewer
    - インストール 16
- B**
- BNC コネクタ 12, 14, 47
  - BOOTP 26, 53, 54
- C**
- COM Port RS232 ページ 31
  - Critical ログ 33
- D**
- Date & Time 21
  - Date & Time Settings ページ 25
  - Devices ページ 49
  - DHCP 26, 53
  - DirectDraw 15
  - DirectX 9, 15
  - DNS の設定 29
- E**
- Event Types ページ 37
- F**
- Firewall ページ 24
  - FTP サーバの設定 42
  - FTP サーバの追加 42
  - FTP セッション 59
- I**
- I/O Ports ページ 30
  - Information ログ 32
  - I/O コネクタ 60
    - I/O-A コネクタ 12
    - I/O-B コネクタ 12
  - IP アドレス
    - 変更通知機能 27, 44
  - IP アドレスの割り当て
    - arp コマンド 14
    - 自動 26
    - 手動 28
- L**
- Line コネクタ 12, 48
  - Live View Layout ページ 51
  - Live View ページ 20, 35, 51
  - Logs & Reports ページ 32
- M**
- Maintenance 21
  - Media Player 9, 15
  - Microsoft Internet Explorer 9, 15, 53
  - Mic コネクタ 12, 48
- N**
- Network - SMTP (email) 21
  - Network - TCP/IP 21
  - Network インディケータ 12
  - Notification of IP Address Change ページ 27
  - Notification Server ページ 44
  - NTP サーバ 25
- P**
- ping コマンド 55
  - Port Status ページ 49
  - Ports & Devices - I/O Ports 21
  - Ports & Devices - RS-232 21
  - Power インディケータ 12
  - Preset Position Setup ページ 50
- R**
- Restart ボタン 32
  - Restore ボタン 32
  - RS-232 コネクタ 12, 60
  - RS-232 ポート 31
- S**
- Security - Firewall 21
  - Security - Users 21
  - Server Maintenance ページ 32
  - Setup リンク 18, 20, 52
  - SMTP (email) ページ 29
  - Status インディケータ 12
  - Support - Logs & Reports 21
  - System Options 20
  - S ビデオ 12, 14, 47
- T**
- TCP/IP Settings ページ 26
- U**
- Upload Servers ページ 42
  - Users ページ 22
- V**
- Video ページ 47
- W**
- Warning ログ 33

- あ**  
アクセス権  
Administrator 23  
Operator 34, 23  
Viewer 23
- い**  
イベント 37  
FTP サーバにアップロード 39  
HTTP notification 41  
TCP notification 41  
出力ポートを利用 40  
通知 44  
HTTP 45  
TCP 46  
電子メールで通知 41  
プリトリガバッファ 39  
イベントの設定 37
- お**  
オーディオ機器 19  
オーディオの設定 48
- か**  
解像度 47  
外部電源アダプタ 56  
外部電源コネクタ 12  
画質 65
- こ**  
工場出荷時のデフォルト設定 12, 32, 33
- さ**  
サーバレポート 32, 33, 55  
再起動 32, 39  
サブネットマスク 28
- し**  
システム要件 15  
シリアル番号 14, 53
- す**  
スイッチ 12
- た**  
帯域幅 65
- て**  
デジタル出力 60  
デジタル入力 64  
デフォルトゲートウェイ 28
- と**  
トリガの実行 38  
トリガの種類 38
- ね**  
ネットワークコネクタ 12  
ネットワークスピードの設定 29  
ネットワークの設定 26
- は**  
パスワード 22  
パラメータリスト 33  
パン / チルト / ズームデバイス  
コントロールバー 36, 52  
接続 31, 62  
ドライバの選択 31  
ポジション 36
- ひ**  
日付と時刻 25  
ビットレート 47, 65  
ビデオソース 19  
ビデオの設定 47
- ふ**  
ファームウェアの更新 59  
ファイアウォール 24  
アクセスの許可 24  
物理アドレス 14, 53  
プリセットポジション 36, 49  
プリ / ポストトリガバッファ 39  
プロキシサーバ 24  
フロントパネル 12
- へ**  
変調方式 47
- ほ**  
ポートのステータス 49  
ポートの設定 30  
ホームポジション 36, 50  
ホスト名 28
- め**  
メールサーバの設定 29
- ゆ**  
ユーザグループ 23  
ユーザの一覧 22  
ユーザの追加 23
- り**  
リアパネル 12  
リセットボタン 12, 33  
リレー出力 64
- ろ**  
ログファイル 32, 39, 55